增訂豆州志稿

卷之壹

ル 4
291
1

門 ル名9
號 291
卷 1

秋山蘇原 編纂
童正平 增訂

增訂豆州志稿

卷之壹

三島 榮樹堂藏梓

增訂豆州志稿

叙由

童幼ニシテ孤也祖父ニ矜育セラル、祖父卒メ又叔父ニ養ハレ、纔ニ成長スル事ヲ得タリ、尋テ母及弟ヲ喪シ獨立子然タリ、又生質羸弱ナルヲ以テ、仕官ニ意無ク、亦耕シテ耒耜ヲ執ル事能ハス、乃チ世ニ久カラサル事ヲ料リ、意ニ謂ラク寧ロ從吾所好、幸ニメ性命ヲ保ツ事ヲ得ハ、冀クハ先人ノ祀ヲ絶サランカ、於是家務ノ暇、書ヲ閑軒ニ讀テ以テ樂ム、繫馬千駟モ不顧ノ志アリ、中年一友ニ誘セラレ、詩章文

辞ニ耽リ、頗ル豪邁不羈ヲ事トス、已ニメ其過ヲ痛悔シ、専ラ心ヲ經書ニ潛ム、道德性命ノ旨ニ於テ、一班ヲ窺フ事ヲ得タリ、乃チ謂フ古聖人ノ道ハ、惟修身ニ在リ、身修而人ヲ治ム是而已、聖賢ノ千言萬語、斯教ニ非ルハ无シ、孔孟以降宋、諸老先生ニ至テ、識見高妙ニ過ト雖、専ラ修身ヲ本トセリ、故ニ其篤行後世諸儒所不及也、後ノ經學者ト稱スル者ハ務メテ新奇ノ說ヲ爲シ、筆ニ命シ刻行シ、以テ才ニ誇リ名ヲ徼ム、況ヤ文人詞客、ハ勿論、章常ニ深ク之ヲ歎慨シ、書ヲ著シ言ヲ立テ爲ル己ノ學ヲ闡明セント欲スルモ、

門衰才疎ニメ空言施ス支無キヲ知テ止ム、伏惟雍熙泰和ノ御世、不士不農ニメ飢寒ヲ免レ、老身長子年已ニ耆壽ニ至リ、先祀ヲ奉スル事ヲ得ル者、是偏ニ深仁ノ餘澤ニ霑フ事廣大也、但吾儕至微至賤、涓埃ノ以テ上報スルニ由ナシ、嘗テ鄉里ノ子弟ヲ教導スルモ、德薄クメ以テ俗ヲ化スルニ足ラス、因テ思フ、懋ニ州志ヲ纂修セハ、地理ニ於テ小補トモナラムト、微賤ヲ忘レ敢テ其事ヲ以テ聞ス、辱ク恩命ヲ蒙リ、州中ヲ巡行シ、羣書ヲ參考シ、三タビ寒暑ヲ歷テ書ヲ成シ、謹テ進獻ス、誠ニ野人獻芹ノ意ニ比ス

ベシ、章素孤陋寡聞、尤國書ニ暗シ、加フルニ老髦ヲ以テス、又校讐スルニ、村里圖録ノ據依スルナシ、即閲畧疎謬多ク、且文辞殺雑ナルヲ知ル、亦惟史館ノ采擇ニ供ス所以名レ稿ト也

寛政十二年歳次庚申三月　豆州秋山章謹識

秋山氏意ヲ州志編纂ニ用ヰラレタル久シ矣臆乗十巻ハ其材料書ニシテ寛政元年ヨリ同十年迄ノ筆記ナリ又以テ其一班ヲ窺フベシ然リ而メ本文三タビ寒暑ヲ經テ書ヲ成ストアルガ如キハ蓋シ其稿ヲ起サレタルヨリノ成績ヲ記セルモノナラム看者或ハ此語ニ因リテ其事實ヲ誤ラザラム事ヲ

いにしへのふぐきはぐくにぐれなるたちのりさまな（古風土記）
ぶをだのきらかまーてみまつりことを（建置形勝）きたまふ（大政布）ものは（便）
ねしきまそむのたあめきれーたるべーいるのお（呂為）
ほみよよちをえらやまめたまふ、はらおなーむ（今全）
ゆよそだのるべきそもりくはるやごとなきふぐきも、（地誌）
たふこのつよのみぐれまちりうせてみるよりなくなりぬるぞ（趣抑）
おほりめるごとぐいづのくにのふぐやきれふるきふみり（乱散止事見由古書）
ふさ〻ちあるれどそのーとうふこは、いやくなくなる（多伊豆）
ふさ〻ちあるれどそのーとうふこは、いやくなくなる（引用元書早）
みたるこそすべもなぐたふやこことなりそれ、ちこの（為方）
るよふくもことせあるアことせすくよのなこのやたく（百年安）

おだひこ伐さるもとよろづのまなび、らくるふまさぶひて、
治　萬　學　開
ふゞきこの紙のふみたつあちなせるがく士いぞくそのたぐ
風土記　料　輯　學　士　類
ひのふみなむれあくいぞきけるこのづ志う志かうん
豆州志稿
そのひとつまてくくんせいのころ志のくまびとたきや
其　一　寛　政　秋　山
万代あきらのをぢゞいさだあきたなせるたりゐづの
章　翁　学　成
くまの志りたちたのりさまよ里はじめなくれのこと
らくたまをおゐまきよることけてづばらこのまえのせられ
條　逐　卷　分　委　曲　編　輯
ありいとゆるふゞきみかけたるをとおぎなそむをそ
所　謂　餘　補
いゆゑもちらまてち志みえらみのことなーをへむゐ
地　誌　功　竣
このふゞきのもとづくぎるをえざるべーたきや方をちの
基　撰

ゐさをよふたぐひなーといひつぶくなむいる万やたのこう
比　無　新
よのみてぶを伝こーてちはこうはこのみおきておきたまひ
世　地　方　制　度　布
くにこほをむらちとのなりたちたのりさ万とやくくこ
國　郡　町　村　漸　々
こつりのそをぬべきゐききとなむなりよけるこのまき志
沿　華　故
れつ志こ志かうをよふほどこらーてゐまよりのちひと
公　行
みなのくにこほりのもとのありさまをあどりむら
皆　旧　探
さとれふるさなりたちなゐこうがをむたのなーひゑ
市　窺　麻　柱
たふさまよ市とおもひたこーこ志ーこふーまたさぶ
為　欲　書　埤
らこゐこばのりてつぎくいたまちこらーむるおとなり
ぬ志のるまなふこのよいおぎそなひこゞさまほきをぢく
補　板　彫　正　條　々

たゝきよりぞれ萬あおかけ家くもこのおもひよれる
ふゝをばさらさびかきくはへてこのせんとすいてや
説　不相應　書　上　木
このふみれあるを祈くゝろまとそよみくるひとぐのたの
遍　閲
たゝひたなとかのあわりもちたのわさまはじめなこく
前　言　彼
きれふるきさやきもきえうしることなくつくはとゆの
是　消滅　傳
むこよいこよるきこいづのくにれさきはひたら万ゝ
無　此上　幸　福
おむこのゝみれをふをたのきやを万をぞれこたまはと
喜　靈
あまかけをてもゝれゝこあまふらむこゝ
天　翔　滿　足
めいぢはさ万をふゝとせのすきたふゞつきはみのゝ八
ハづのくふひとはぎはさはられまさひらきゝるん

凡例

○上古ノ風土記今已ニ亡失セリ其後千載ノ久キ継纂ノ擧ヲ聞カズ又州ニ文雅ノ士有テ一事一語ノ記シ置タルヲ見ズ近来妻浦村ノ醫生不白ト云人伊豆鑑数巻ヲ編ム此吾州ニテ地誌ノ嚆矢ナレハ其志誠ニ可嘉事ナリ只憾ラクハ其足跡未タ州ニ偏カラズ且所載瑣事巷談ノミニシテ采録スベキモノ少ナシサレバ往古来但六國史及羣書ノ中ニシノ事一切本ヅキ據所ナシテ採摭スルモ固ヨリ偏小ノ地故流竄人ノ外事ノ記載ニ著レテ世ニ表スベキモノ少ナシ且田野書ニ乏ク秘籍奥牒寓目セザル多ケレバ其挂漏アルハ後ノ君子ノ補正ヲ俟ツ（増）伊豆鑑三巻伊豆名迹志十六巻（亦伊豆鑑ノ稱ヲ附スアリ皆不白

ノ撰ニ係ル其他伊豆國志、伊豆日記、伊豆國輿地志、伊豆順行記、等アリテ率ネ大同小異ノモノナリ特リ順行記ハ其足跡州中ニ遍ク畧探求ヲ盡セルモノヽ如シ委クハ各其本書ニ就テ知ルベシ

(増)本書編纂スル所概ネ正史實録其他ノ記載ニ因ラザルモノ無シ故ニ引用書目ヲ掲ゲテ其出所ヲ詳ニス

○世ニ行ハル、書中大成經廣元記藤九郎盛長私記三河後風土記ノ類皆近世ノ假託ニ出ル故取ラズ又假託ナラザレモ後世編集セル軍書ナド全ハ信用シ難シ後世ノ著述ト雖モ考據精覈ナルハ此例ニ非ズ

(増)原書引用書目ハ隱秉ニ記載セルヲ採録ス

(増)神社佛閣及民家等藏スル所古文書上梁文緣起ノ類後人ノ假託ニ出ルモノ無キニ非ス書中引用スル所其正キモノ而已ヲ採リテ其疑シキ類ハ暫ク闕如ニ

從ヒ後人ノ是正ヲ俟ツ

○古碑古墓マヽ存スル者或ハ斷折或ハ磨滅又神祠ノ上梁文佛寺ノ流記或ハ散失或ハ火災ニ罹ル唯室町氏以來小田原北條氏ノ文書頗民間ニ存シ考証ニ益アリ別ニ録シテ數巻トシ以テ家ニ藏ム(増)其輯録セルモノ散失シテ傳ハラザル頗遺憾トスル所ナリ今ヤ本編增訂ノタメ蒐集スル所ノ古文書類亦少カラズ此ヲ根基トシテ漸次纂輯シテ以テ再ヒ其功ヲ收トス

○天城山ノ南ヨリ北方ヲ稱シテ口伊豆又田方ト云田方ノ人山南ヲ指テ與伊豆ト云此書ニハ是ヲ山北山南ト云嶺ヲ畏シテ風氣習俗少カ異アリ

○村數ハ皆見在ノ數ヲ擧ク如那賀郡十七村井田郷九村昔郡郷ヲ分ツ時此數有リトスルニ非ズ餘皆準之

(増)各町村ノ實況ヲ觀察スルニ中古郷莊ヨリ分レテ數小部トナリタルヲ後ニ其一部落ヲ一村ト唱ヘタ

ルモノ多キガ如シ天正十八年検地帳ニ狩野ノ内某村大見ノ内某村ナト有ルヲ以テ其他ヲモ推テ知ルベキナリ

(増)各村里ノ名稱古今同カラザルモノ有リ此類現行ノ文字ヲ記シテ異ナルモノハ悉ク掲載シテ以テ其異同ヲ詳ニス例ヘバ田方郡加殿村天正十八年検地帳ニ門野村ト書キ賀茂郡青野村寛永二年検地帳ニ粟生野村ト記セル類是ナリ

○路程ハ新ニ丈勘セシモ有レ共多クハ村人ノ記シ出スニ従フ是或ハ爭論ヲ開カン事ヲ恐ルレバ也此故ニ或ハ差誤無キヲ保セス(増)イマ訂正スル所各町村差異ナキヲ保セザレバ逐次訂正ヲ加ヘテ以テ終ニ其真正ニ帰セントス其實測ニ係ルモノト雖亦

○本州土産少ナシト雖土石草木禽獸蟲魚皆備ハル亦宜ク類ヲ折チ品ヲ分チテ以テ觀覽ニ便スベシ是通例ナリ此編物多キヲ先ニ聚メ少キヲ後ニ置ク是ヲ以テ一類ニシテ數所ニ散見シ錯雜見難カラシム此故有テ然リ其他類例ニ不拘モノ義略各部ノ首ニ見ス(増)農産物及桑茶蚕ノ類各町村蕃殖スルモノヽ如キハ之ヲ本條下ニ掲載シ只其特有物産ノ類或ハ各町村ノ條下ニ記ス事アルベシ

○本州ノ古迹古事ハ一石一木ニ至ルマデ皆頼朝々々ト言ザルハ无シ其中奇怪ノ説ヲ傳會スルモ亦多シ頼朝卿流人トシテ二十余年伊豆ニ落魄シ一旦龍興シテ天下ヲ掌握セレハサモ有ルベキ事ナガラ他人

ノ事迹マデ皆混同シテ頼朝トナス畢竟他ノ聞慣ザル姓名ハ田夫村翁記得シ難ク且不便ロ故モ有ルベシ他ノ事實之カ為ニ隱タリ是レ惜ムヘキ哉

○此編必シモ府志邑乗ノ體ニ倣フニモ非ス亦零碎繁冗ヲ厭ハズ但時用ニ達スルヲ詮トス其中忌諱スベキ事有ルハ十二二三ヲ刪削ス（増）今増訂スル所亦此意ニ基キ凡テ實著ヲ主トシ強テ文飾ヲ用ヰズ

○海嶋固ヨリ伊豆ニ属スレバ別記ニスベキニ非ザレ共隔遠ノ山川村里内地ト混同シテ見ヤスカラズ故ニ海島ノ部ヲ立ツ

○天平十年令下天下諸國造國郡圖進其圖已ニ亡シヌ元

祿中天下毎州ノ地圖成ル但官庫ニ藏マリ人間輙觀ル事ヲ得ス是ヲ以テ本土ノ小圖ヲ成シテ以テ地志ニ附ス又古城跡及古器等ノ圖ハ雜部ニ入ル（増）國圖ハ逐次修正ヲ加ヘテ本書ニ附スベシ古城跡古器物等ノ圖今散佚シテ傳ラズ是亦漸次纂輯シテ編ヲ成シトス

（増）秋山章氏臆乗十卷アリ嘗テ氏カ本書豆州志編輯ニ從事セラレシ十年間ノ筆記ニシテ其見聞スル所小大載テ漏サス頗氏カ積年ノ功勞ヲ觀ルニ足ルモノ也今ヤ本書ニ登載セザル限リ悉ク拾收シテ以テ其功ヲ没セザラントス此書（臆乗）ト豆州志原稿（氏カ自筆書入アルモノ）ノ二書既ク散失シテ甲斐國某氏ノ藏スル所トナリシヲ去明治十五年度山梨郡長八代駒雄氏ノ周旋ニ因リテ再ヒ本州

ニ還リ本書ヲ増訂スルニ當リ採摭ニ供スル所トナル蓋偶然ニ非ルベシ

㊐本書原稿ノ文ハ○ヲ冠シ今増訂スル所ハ㊐ヲ置テ之ヲ分ツ今記ス所カメテ原稿ノマヽヲ存シ秋山氏ノ手澤ヲシテ滅セザラシメムトスタマヽ改ル所アルモノハ其誤謬判然ナルモノニ限レリトス

㊐今増補スル所反別、地價、地租、戸數、人口、ノ如キ概ネ明治二十一年ノ調査ニ因ル但未タ其精査ヲ遂ケザルモノハ暫ク之ヲ欠キ他日町村部附録ヲ編新町村、區域及反別、租税、戸口、其他ニ至ルマデ詳悉スル所アラムトス

㊐本書校者四名ヲ掲グ曰孫善政、廣瀬恭貞、秦中仲、土岐柏、是也蓋其纂輯ニ與ル者ナリ今頃冗ヲ厭テ之ヲ省キ暫ク此ニ掲ゲテ其功ヲ没セザラシム、

引用書目

日本書紀
日本後紀
續日本後紀
續日本後紀
三代實録
類聚國史
舊事本記
日本紀畧
帝王編年記
本朝世紀
歴代皇紀
皇代記
一代要記
百練鈔
台記
同別記
人車記
玉海
東鑑
東鑑脱漏
平治物語
参考保元平治物語
源平盛衰記
大平記
續大平記
兼久記
梅松論
園大暦
延喜式
拾芥鈔
職原鈔
尊卑分脈
㊐同考異
朝野群載
公卿補任
国司補任
正續古事談
㊐類聚符宣
類聚倭名鈔
㊐日本後紀
文德實録
㊐同仙石本
扶桑略紀
神皇正統記
皇年代畧記
小右記
兵範記
増鏡
保元物語
平家物語
難大平記
新鈔格勅符
令義解
豫章記
類聚倭名鈔
蟇嚢鈔

增 神鳳鈔頭註
增 神名帳考証
增 神祇志料
増 伊豆國式社考証
増 將軍執權次第
鎌倉大雙紙
鎌倉九代後記
北條五代記
小田原記
異本蘇我物語
武田三代記
日本靈異記
古今著聞集
日本紀纂疏
古史傳
讀史餘論
宗忠日記
下學集
紐調考

増 風土記逸文
増 康永神名記
増 神社私考
増 易林節用集
増 駿河國式社考証
増 室町日記
北條九代記
鎌倉九代後記
駿河國風土記
畠山記
建武年間記
関東古戰録
善隣國寶記
新著聞集
日本紀通證
大日本史
武德編年集成
北條役高帳 一名北條氏分限帳
制度通
玉石雜誌

二十二社本縁
増 神社考
増 特選神名牒
増 國華萬葉記
和漢三才圖繪
足利官位記
北條大平記
清水九代後記
豆相記
蘇我物語
甲陽軍鑑
廢城考
今昔物語
釋日本紀
古事記傳
野史
駿府政事録
合類節用集
職官志
塩
凡

和爾雅
萬葉集
後撰集
六帖
新千載集
人丸集
散木集
李花集
爲家集
弘安二年三島三百首
八雲御鈔
無名鈔
能因歌枕
方角鈔
萬葉名寄
十六夜日記
梁塵秘鈔
扶桑拾葉
故事談
擁書漫筆

増 和訓栞
増 同畧解
増 拾遺集
新撰六帖
續後撰集
相模集
六家集
雲葉集
芳野山集
古今集頤註
袖中鈔
懷中鈔
歌枕名寄
初學鈔
筑前名寄
砂石集
同愚按鈔
本朝文粹
新續故事談
伊吹屋文集

増 増補雅言集覽
古今集
後拾遺集
新後拾遺集
玉葉集
伊勢集
鎌倉右大臣集
季經家集
今川真家集
藻塩草
奥儀鈔
井蛙鈔
松葉集
秋寢覺
挑草紙
吉野拾遺
北國紀行
朝野群載
太田道灌隨筆
洌泊文藻

增 泊歌集
正木文書
閑東合戰記
久留里記
富麓記
日本風土記
河内志
常陸國誌
熱海地誌
遊囊賸記
駿河國名勝志
伊豆鑑
伊豆國輿地誌
伊豆日記
海若子伊豆日記
伊豆洪水因緣記
七島風土記
大島聞書
七島全圖
富士見卜三州圖

增 穗向屋集
東乱記
韮山記
甘縄記
臺灣軍記
諸國名義考
鎌倉志
大日本國志
繫游餘録
駿河國新風土記
駿河志料
伊豆名迹誌
伊豆順行誌
伊豆國勝紀
遊豆紀
伊豆温泉志草
七島紀畧
小笠原島記
伊豆國圖
伊豆國實測圖
駿河國圖

增 橘千蔭集
鎌倉記
武家盛衰記
上杉禪秀記
人國記
攝津志
房總志料
大日本地誌提要
東遊行囊鈔
駿河記
新編相摸風土記
伊豆國志
伊豆日記
伊豆勝覽
旅衣
南島雜誌
伊東誌
同奏憶九圖
駿遠豆三州圖
相摸國圖

增 小笠原島圖
聯燈録
寂用集
同禪林祖傳
元享釋書
佛光國師録
笠仙録
高僧詩選
日本高僧傳
續羊集
扶桑高僧傳
箱根山由来記
三島大社傳記
日工集
三宅記
石廊縁起
白濱社記
古語拾遺
起
可成談
通雅
鞴軒小録
事玄要言
東歸集
東雅
墨莊漫録
孝節録
玉露叢
弘安禮節
續先哲叢談
京蔭日記
文苑英華
三儀一統
大明一統志
日觀考要
孝子蒙求
海東諸國記
中山傳信録
博物志
開歷雜事記
新撰年表
本朝食鑑
南方草木狀
五雜俎
東國通鑑
琉球國志
盍簪録
岩淵夜話
和漢年契
和漢合運
物理小識
本草綱目
大和本草
秘傳花鏡
用藥須知
救荒本草
同啓蒙

同後編續編
纂選
足利系圖
武家系圖
鐮倉武鑑
伊東系圖
新撰年表
常陸帶海記
續談
報德記
莊園考
川口氏記
大川氏記
大藏省租稅簿
相模國宮上村誌

救荒野譜
温泉小言
武田系圖
十六卷系圖
江源武鑑
日蓮傳記
近代月表
西遊記續編
遠書
郡鄉考
河蝦氏記
雉氷氏記
伊豆國地質取調報告書

怡顔齋介品
鑛泉志
河野系圖
十四卷系圖
延慶鈔
伊東志
近事紀略
經濟錄
日本史
續
國郡沿革攷
凶歳必鬱
矢田部氏記
地理局取調書
地租改正紀要

增訂豆州志稿目録

○卷一　建置、疆域、形勝、地質、氣候、風俗、沿革、國造、國司、守護職、守護代、伊豆國縣令、下田奉行、租、調、庸、莊園、武家役、貫高、石高、里程、郡鄉、祥異、雜事

○卷二　町村　上君澤郡　下田方郡

○卷三　町村　上賀茂郡　下那賀郡

○卷四　山嶽　上　下

○卷五　原野、林叢、公林、洞窟、石巖、嶼、嶠

○卷六　川溪、橋梁、濟渡、池塘、井泉、温泉、瀑布、海嶼、港

○卷七　物産

○巻八　神祠上君澤郡下田方郡
○巻九　神祠上賀茂郡下那賀郡
○巻十　佛刹上君澤郡下田方郡
○巻十一　佛刹上賀茂郡下那賀郡
○巻十二　墳墓、荒墳、古跡、名所
○巻十三　流寓、人物、列女、僧英
附録
○新町村之部一巻
○古文書之部
○古器物之部

増訂豆州志稿巻之一

豆州　秋山章纂輯
萩原正平増訂

○建置

㊐按ズルニ本州建置ノ年歴詳ナラズ○舊事紀、國造本紀、曰、伊豆國造、神功皇后、御代、物部連祖天、粧梓命八世孫、若建、命、定賜國造、難波朝、御世、隷駿河國、飛鳥朝、分置如、故、旁註曰、難波朝孝徳、飛鳥朝天武㊐日本紀曰、應神天皇五年冬十月、科伊豆國、令造船、三十一年秋八月、詔群卿曰、官船枯野者、伊豆國所貢之船也ナド有ルヲ以テ、其建置ノ舊キ事ハ知レ

タリ蓋國造本紀ニ據ニ、孝德天皇ノ朝、國郡ノ制ヲ立ラレシ時、一タビ駿河ニ隷シタルガ、天武天皇ノ時、復故ノ如ク分置セラレタル也、扶桑略紀ニ、天武天皇、九年秋七月、別駿河國二郡、為伊豆國、ト有ルヲモ攷合スベシ、但此時始テ駿河二郡ヲ別テ伊豆國ト為タル如ク記セルハ細シカラズ

○駿河風土記曰崇神天皇三年割伊豆國而為分國、一書引准后記曰伊豆別皇子者景行天皇二十四子武押別命也伊豆風土記曰割駿河國伊豆乃崎號伊豆國、(増)是等ノ書何レモ正シキモノニ非ズ且他ニ証無レバ今之ヲ取ズ准后記又伊豆風土記ナド見ルニ概ネ後人ノ假託ニ出ルモノニシテ實地ニ適ヘル説アル事ナシ委シクハ各其書ニ就テ知了スベシ

○疆域

○伊豆者出也、南海ニ突出ツ、故ニ以テ州ニ名ク、(増)名稱ノ事日本風土記云伊豆國カナガキナリ此ハ出名國トカクベキナリ其故ハ東ノワキニ相模國西ハ駿河國ソノ中間ヨリ豆州ハ遥ニ海中ヘサシ出タル山サキニテ有ナリ故ニ出ノ國ト云ニハ伊豆ノ御山ニ出湯アリ伊豆ノ權現ハ此國ノ鎮守ニテ此神ハ湯ヲ愛シ不斷湯ノ上ヲ走リ遊タマヘルナリ然レハ走湯出トモ準シテ伊豆國トカナガキニスルトナリ(國名風土記同之)或ハ稜威國(平田篤胤翁説)出湯國(齋藤彦九氏説)等アリテ一定シ難シ

去京師九十二里東少南ニ當ル極星出地三十五度豆南三十四度半(増)北緯三十四度三十四分ヨリ三十五度十一分五十秒ニイタル西經(東京ヲ本部トシ起算ス)零度四十六分四十秒ヨリ一度一分四十秒ニイタル

駿相二州南北二十三里許東西十一里餘(増)幅員東西■■里余南北■■

○東西南三面至海、北接

里余凡ソ面積大略七十方里ト概算ス■■■■東北方相州足柄下郡トノ疆界ハ伊豆雄山ノ東方門川(増)一名千歳川又境川ヨリ役行者ノ石像アルユエ地名トナル二至ル見通州界也亦神領也北ヨリ一線ノ山脊路ヲ界トシ石原坂ノ表木ニ至ル表木ヨリ蘆湖ノ西ノ山脊通山伏嶺三國山(増)君澤郡伊豆ニ佐野村ニ属ス至ル西北ハ大溪瀧溪ノ二溪茶畠村(増)駿東郡上ニテ合流シ以下ヲ界川ト云幸原村ヲ經テ三島ノ千貫樋下ヲ過キ長伏村ニシテ狩野川ニ注クマデ駿州駿東郡ト凡テ此川ヲ界別トスレドモ近世幸原ニシテ水盡ク東ニ決シ西南方千貫樋マテ水枯渇スレドモ仍旧蹟古水通ヲ界トス長伏村ヨリハ狩野川界タリ江間村ニ至テハ駿州大平村口野村ト

村トノ間連山岡脊界ナリ、海濵ハ重寺村ト駿州口野村トノ間ニ犬潛ト云處ヲ分界トス(増)駿河志料口野村條云此地ハ豆州君澤郡重寺村ト接シテ駿豆ノ分境ナリ金櫻小祠アル山ノ脊通リ山鼻ニ犬潛ト云所ヲ見通シ海中ニ石アリ之ヲ境トセリト按ニ古昔相州トノ疆界ハ箱根山脊通ヲ北ニ指シ今箱根驛ノ三島町ト小田原町トノ間ヨリ湖水ノ中通ヲ豆駿相ノ分界トス信救記曰孝安天皇時熟視西境風致西當作東跨伊駿相三州因分其域而良材立波心號目代本西汀名駿河津南岸號伊豆地東濵名相摸津記附錄云是木和歌ヲ刻ス亦印木トモ國分木トモ云三極木也歌ニ足柄ヤ菅荷ノ湖ニケヽラアヤ三國ヲ分ケテタツ小白波按ニ總テ物ノ眞中ヲ心ト云ケヽラハ心ナリ湖水ノ眞中ト云事ナリ古今集甲斐歌ニ甲斐ガネヲヽサヤニモミシガヽケヽラナク、ヨコホリフセル、佐夜ノ中山頭註ニケヽナクハ心ナクト云也五音同ジキ故也甲斐國ノ風俗トモ申ス夫モ五音通ヒテ

侍ルトサテ目代ノ字ヲ用ルハイカガ目印ノ義ナルニ
十）此木ノ事ヲ箱根人ニ尋ルニ其木今ニ存在ス早年ニ
湖水減ズレバ三尺許水上ニ見ルト云（増）按ニ此木ハ往
昔噴火ノタメ山口塞リ湖水ヲナセル時立木ノ儘埋レ
シモノナラン信濃記良材ヲ波心ニ立ツト云説ハ信ニ足ラズ

○稲葉氏小田原候タル
頃疆界今ノ所ヘ移ル由ナリ、善隣國寶記ニ、應永戊申、源
道詮、求一切經、於朝鮮國、書曰吾州伊豆州恭錄山東福教
寺、東方之靈區也ト又相摸風土記ニ曰西限湯之瀬山ト湯
之瀬山トハ蘆湯山ノ山ナルベシ但箱根權現ノ相摸ニ
アル諸書ニ明也豈時代ニ因リ其邊伊豆ニ屬セシ事モ
有ンカ（増）箱根神社ノ祭神ハ大名牟遲神少彦名神ニシテ舊ハ蘆湯ノ下宮下ノ上ニ鎮坐ナリシ事別ニ
攷証セルモノアリ就テ知ルベシ

○北方ハ古ヨリ境地少ク蹙シト見ユ伊
豆佐野ノ北方一里許ニ問答山アリ曾テ二州山訟アリ
是古ノ分界也ト云

○甲陽軍鑑等ニ伊豆境深澤城、新荘、小田原候北條氏切取、駿河ノ地皆伊豆ト稱シタリ總テ戰爭ノ時ハ諸州
共ニ此ヤウノ事多ク疆界大ニ錯乱スルナリ

○北條五
代記ニ云駿州ノ内高國寺ト三枚橋ハ勝頼ノ城ナリ泉頭、
長久保、戸倉、志師濱、此四ツ城ハ駿河國中タリト雖今川義
元ノ時代北條氏綱切取リシ以來氏直ノ領國トナル義
元信玄時代此駿河領ヲ取返サントスレドモ遂ニ叶ハ
ズ叔又沼津ノ浦ツヾキ香貫、志下、志師濱、真籠、江浦、多飛、
ロ野此等ノ浦里モ駿河領氏直有也ト按ニ此頃ノ事記
セル諸書ニ右ノ所々ヲ伊豆トセルハ是故ナリ然レド
モ古代ハ除長久保ヲ外ハ皆伊豆ノ地也ト見ユ駿河ニ隷
スル事久遠ナル事故今知難シ郡郷ノ部ニ考アリ（増）按
ニ豆駿國界ノ事諸説區々ニシテ一定セス次ノ郡郷條
云或云駿州駿東郡口野ヨリ多比、江、浦、獅々濱、真籠、志下、
我入道、香貫、ニ至ル八村マタ日守ヨリ大平、德倉、的場、畠
中、戸田、久米田、西玉川、湯川、堂庭、材田、長澤、八幡、伏見等ノ
二十餘村モト伊豆ノ地ナリト如此ナレバ狩野、黄瀬、二

水ハ官道ヲ以テ州界トス地形宜ク疆域尤分明ナリト
テ其攷証ヲ記セリ然ルニ駿河志料國境條云香貫ヨリ
口野ニ至ル八ケ村又日守ヨリ伏見ニ至ル十三ケ村等
ノ地モト伊豆ニテ當治世トナリ駿河家ノ時ニ駿河ト
ナレリト伊豆人秋山氏ノ豆州志稿ニアレド其ハ僻事
ナルベシト云々玉造社郷條ニ云此地ハ倭名鈔ニ云フ玉造郷
ノ地ニシテ玉造ハモト完人郷ナリ南方志々濱ハ伊豆國風土記殘闕
東ナル長澤等ハ駿河郷ノ地ニシテ其時ヨリ北
本ノニ駿河國伊豆嵜ヲ領チ伊豆國ヲ置トアル其
今分境ニテ中古本國ハ今川氏伊豆ハ上杉氏ヨリ
條氏ニ至ル分國ノ時又當治世トナリテモ分境ハ易ラ
ザリシヨシ灼然ク其徴頗多シ諸郡神階帳ニ玉造加奴
岐、玉川、完人、利倉等ノ社號ミユ式外ノ社ニモ神階帳ニ
載セラル、ハ古社ニシテ其社號ノ地名ニ現存スル地
ハ狩野川黄瀬川ノ東南ニ在リ云々ナト
記セルガ如シ此ニ附シテ後考ニ備フ

○形勝　增附地質氣候風俗

○豆為州南大洋ニ張出テ三面海ヲ環ス、北方纔駿相ニ接シ

西駿州東北ハ房州ト相望ム、南方極天無際ノ大海ニシ
テ、九島及小笠原島諸島ノ外、復一片ノ土壤ナシ、州ノ幅
員里數ヲ以テ見レバ不甚小州カ如クナレドモ、地形斜
狹ナル故、州域ハ則狹窄也、且中央ニ天城山磐礴シ、函嶺
左ニ蟠リ、鐸山達摩山右ニ聳ヘ闔州凡テ亂山復嶺、嶮岨
崎嶇、唯三島ノ南二三里廣半里許ノ間平地有ルノミ、其他
ハ山、峽溪澗ニ傍テ栖居スベク見ユル處ニ家作シ村落
ヲ成リ、增ナホ形勝ヲ詳ニセムニ天城ノ山脈東西ニ連
亘シ西北ニ起伏シテ國勢ヲ大別ス四郡各々山
ニ因リ海ニ沿テ居落ヲナス唯三島以南平坦ヲ見ルノ
ミ而シテ其山脈ノ東ニ連ナルモノヲ東藍、箭窪、北ニ延テ
函根ニ接スルモノヲ鈴峯、日金山、トス又（自天城）南ニ
走ルモノヲ婆婆羅山、高嶺、高嶺山、嶺山トス又西北ニ起

ルモノヲ達摩山、真城山、トス其餘脈或ハ瀕海無數ノ岬角トナリ或ハ洋中數十ノ島嶼トナル而シテ其岬角ノ大ナルモノ東ニ在ルヲ爪ボ崎、石廊崎、西ニ在ルヲ雲見崎、大瀬崎、トス、又其島嶼ノ大ナルヲ大島、利島、新島、神集島、三宅島、御藏島、八丈島、(所謂七島)トス河川亦天城ノ山脈ヨリ發スルモノ多シ、其尤大ナルヲ狩野川トス之ニ次ヅモノ河津川、稲生澤川、手石川、那賀川、仁科川トス、之ニ次ハ大見川、伊東川、白田川、等トス又海灣ノ大ナルモノヲ内浦灣、伊東灣、トス禦港ノ著名ナルモノヲ下田港トス之ニ次ヅモノヲ田港、網代港、田子港、トス其他數多ノ港灣アリト雖モ何モ狹小拔擧スルニ遑アラズ

○誠ニ僻遠偏小ノ州故聖武帝ノ時流刑三居、中伊豆、遠流、地定メ給フ豊大閤ノ頃遣放スル事易ラズ又天下、諸州大上中下ノ四等ニ定ルニモ伊豆ハ下國ニ列ス、サレドモ源武衛ノ北條ニ龍興シ、府ヲ鎌倉ニ奠シヨリ、行程僅ニ二三日、於是両都ノ間ニ介ハヲ以テ、稍通用宜ク成リ、國家(徳川氏)ニ至テ其壯麗、繁榮、實鎌倉ニ十倍スルノミナラズ、是ヲ以テ州人海濱ハ漁獵ヲ務メ、山民ハ入山伐薪漕運ニ習ヒ、魚物薪炭等ヲ都下ヘ輸ス、順風ニハ旦ニ開帆シテ午時ニ達ス、陸路ハ緊要ノ急事ニハ一日ニ至ルベシ、實ニ水陸交通ノ州トナル、夫三島ハ箱根山、上口也、海舟往來ハ下田嶴ニ繫泊セザルハ少シ、予嘗曰、地當水陸、形要實江都之扼喉、但土田狹隘ニシテ、且磽确是ヲ以テ粟米麻絲ノ産寡少、民衣食ニ營々シテ殷富ノ者ナシ、(增)地租改正紀要云(永利及土地ノ沃瘠)稀ニシテ多ハ河流溝渠ニ資リ故ニ全管ヲ達観スレバ灌漑便利ノ國ト云ベシ然レドモ一旦霖雨河水氾濫ス

レハ概バ平地海ノ如キニ至リ害ヲ被ルモノ尠カラズ土質ハシテ良土ニ非ズ又沿海諸村内ニハ全細砂質ナル
モノアリテ地力甚薄ク幸ニ海濱ニ近ク肥料ニ富ヲ以テ牧量ヲ得ルト云但稍肥沃ト稱スベキモノハ君澤郡
三島宿田方郡韮山町賀茂郡下田、松崎港近傍地ニ過ギザルナリ又云(氣候)氣候ハ概シテ温暖ナリト雖地ノ高
低ニ由リテ差アリ即瀬海沿道ノ平坦部ハ降雪ヲ見ル事稀ニシテ嚴冬梅花笑ヒ嫩萌ヲ生ス北信甲ノ山嶽ニ
接スル村落ハ之ニ反シテ寒威凜然秋霜早ク降リ春雪晩ク消ユ摘茶播麥等ノ時期海邊寒暖ノ地ニ比レバ三
四旬ヲ後ルト極暑九十三度極寒三十三度(增)ナホ地質ノ調査スル事伊豆國地質取調報告書云伊豆國地質ヲ
ニノ該國ヲ組成スル地層ハ古層期鉻結石全期煤層及ヒ冲積層ヲ所謂上期火山石ト下期火山石ト
シヤリ地ナリ故ニ此國ノ基岩ハ晶質板石(蓋實驗スベカラズ)依テ云ヒナリ地下深處ニ至テ板石アルヤ知ルベカラズ
露出ノ岩石ハ古層期ニ於テ噴出ズ火成石多シ此國ノ基岩ノ
表上ノ煤層ハ古新ヲ論セズ成層ヲ所アレトモ此ノ極メテ
狹隘ノ部トス夫ヨリ古層下期ニ於テハ紅石ノ噴出セ

シ部少カラス然レトモ水成石ノ成層セシ徵ハ見ルベ
カラス夫ヨリ新層期ニ至テ水成岩成シヤリ期ニ
層シ其上期ニ於テ火山石噴起シ火山石脈ヲナシ全下
期ニ及ヒテ火山石噴出シテ噴火山ヲ成セリ冲積地ハ
即此各層ノ水勢(河水雨雪永等)及ヒ空氣ノ作用ニテ妻
シ鉻底平地ニ累積セシ者ナリ是耕地ノ基土ト云フベ
シ云々夫各地ノ肥瘠ハ其地質ノ如何ニ依ルヲ以テ今
悉ク之ヲ明解スルニ遑アラズト雖概スルニ伊豆ノ地
方ハ地質總テ單簡ニシテ新層地ヲ除クノ外即火山質
及ヒ鉻結石質地ハ皆佳良ノ土性ト云テ可ナリ新層地
ハ各地土性ヲ異ニスレバ只ニ一二ヲ以テ確言シ難シ
ト雖概シテ下悪ノ土性ニ非ズ下田港近傍即稻生澤両
邊ノ耕地ノ如キハ所謂粘灰質ニ近ケレバ善良ノ地ト
云テ可ナリ只其成分ノ不足ニ若シムナリ他ノ新層地
ハ此地方ノニ比スレバ稍劣ルモノトス田方、君澤、両郡狩
野川両邊ノ耕地ハ長石巖ノ分解ニト成リ全國中最モ廣壤
ノ平地トス此地方ノ土質中ニモ等ク是亞爾加里分ヲ
含ム少ナクス又石灰モ不足ナルガ如シ全國ノ田圃ハ八
千三百九十畝ニシテ其面積ニ比スレバ(全國大略七十
方里ノ概算)僅ニ三百分一ニ居ル豈未墾ノ地多シト云

ハザルヲエシヤト、(増)マタ風尚習俗ノ事ハ古ク人國記ト云フモノニ當國ノ風俗ハ強中ノ強ニシテ氣ヲ禀ル所都テ清ナリト有ルヨリ外ニ考フベキモノナシ近ク從ヒハ縣治紀事本末ニ全國ノ大勢概ネ天城ノ山脈ニ從ヒ北山南山西ト別ヒリ然而シテ其山北ノ民ハ資性敏捷ナルガ如シト雖或ハ忍耐ノ力薄クシテ每ニ惰懦ニ流ルヽノ弊アリ市街及船舶輻湊地ノ如キ更ニ一等ヲ加フル山南山西ノ民ハ能ク生業ニ勞スルモノ多シト雖偏陋固僻ノ質ヲ免レズ云々特リ中央部落中マヽ有ノ氣象ヲ存スルモノヲミル古今人物ヲ出ス此地ニ有為多シトス將來望ヲ屬スベキモノ蓋此部ノ民ニ有シテ乎概シテ之ヲ謂フ時ハ樸實正直ニシテ詐欺奸黠ノ風鮮シト云ンモ大差ナカルベシ云々雖新以來開拓種藝興學起業ノ如キ人民ノ方向ヲ變シ面目ヲ改ムルモノ少カラズト雖上地ノ貧福居民ノ勤惰ニ因テ大ニ進歩ノ徑庭ヲナスニ至ル云々ト以テ其梗概ヲ推知スベシ

○沿革

(増)上古國造ヲ置レシ以來ノ沿革ハ史乘ノ徵スルナキヲ以テ之ヲ考フル能ハズ中世郡縣ノ制ヲ立ラルヽヤ國府ヲ田方郡ニ置キ下國ニ列シ三郡ヲ管ス其國司ノ史乘ニ載ルモノ次條ニ詳ニス

○天平寶字八年大伴宿禰伯麻呂ヲ以テ伊豆守トス其ヨリ以還交代相繼ク(増)鎌府ノ初山名義範守護ヲ以テ州守ヲ兼ヌ文治中源頼朝本州ヨリ興リ天下ヲ定ムルニ及ビ後白河法皇特旨ヲ以テ本州ヲ源頼朝ニ賜ヒ子孫ニ傳シム○是ヨリ府治北條ニ徙ル國司ノ居ル役所ヲ府治ト云其役所ノ在ル處ヲ國府ト云諸書ニ三島ヲ伊豆國府トスルハ往古ヨリノ府タルヲ以テ習稱スルナリ其後西園寺殿ノ領トナリシ事アリ(増)足利基氏鎌倉管領トナリ安房守上杉憲顯ヲ以テ守護ダラシム正平中憲顯南朝ニ

歸順セルヲ以テ畠山義深ヲシテ之ニ代ラシム義深西歸憲顯再足利氏ニ降リ本州マタ其所轄トナル○康安初畠山國清、伊豆ニ據テ鎌倉源基氏ニ敵ク幾ノモ亾シテ勢屈シテ降ル享德ノ始足利成氏兩上杉ト戰ヒ關東大ニ亂ル○長祿元年左馬督源政知（増）將軍義政ノ弟東ニ下リ北條堀越ニ鎮メ關東ヲ遙制ス○蓋山内房顯扇谷定正等ノ迎ヘテ延德中政知卒シ内乱起ル伊勢長主帥ト仰ゲルナリ氏襲ヒ擊テ堀越ヲ陷シ政知ノ子茶々丸ヲ擊テ之ヲ亡ス山北ノ諸士從之者多シ又伊東氏狩野氏ト戰フテ之ニ克ツ明應四年小田原城ヲ掩取シ其子氏綱ヲ置キ長氏ハ多々韮山城ニ居ル己ニシテ伊豆國中盡ク長氏ニ服從セリ長氏終ニ此ニ卒ス（ソレヨリ白井遠江守ナト之ヲ守ル）（増）天正ノ頃北條美濃守氏規城主トシテ上方ニ備フ十八年豊臣氏東征ノ時氏規死守シテ屈セス和議起ルニ從ヒ氏規乃城ヲ開テ退キ小田原ノ社稷ト其終ヲ同ウス北條氏亾ブルニ及デ本州德川氏ニ歸シ同年九月内藤豊前守信成ヲ韮山ニ封ジ戸田三郎右衛門忠次ヲ下田ニ封ジ其他ハ三島ニ代官ヲ置テ管セシム慶長中信成ノ子紀伊守信正濃州大垣ニ封ヲ移シ忠次ノ子土佐守尊次參州田原ニ治ヲ轉ゼリ爾後率ネ三島代官ノ呼管トナリ交代相續キ數十年ヲ經過シ漸次分割シテ二三諸侯

ノ呼領ト數十簇下、采地トナル一村落ニシテ領主支配頭ヲ奉スル等頗ル錯雜ヲ究メ慕領僅ニ一萬石餘ヲ殘スニイタル江川氏寶曆以來代官ヲ以テ本州及ヒ駿相武ノ慕領數萬石ノ地ヲ管ス王政革新ノ始メ韮山縣ヲ置キ江川英武ヲ以テ知縣事トナシ本州其他ノ舊所轄地ヲ管セシム明治四年十一月本州ヲ足柄縣ニ併セ支廳ヲ韮山ニ置キテ之ヲ管セシム同九年四月足柄縣ヲ廢セラル、ヤ本州遂ニ靜岡縣ノ呼轄ニ歸ス縣治紀事本末地誌提要參觀

○國造國司守護職、守護代、增附伊豆縣令、下田奉行

○上古神道ヲ以テ教ヲ設ク其制ハ郡縣ナル故每州一人ツヽ專其國神ヲ祭祀シ兼テ民事ヲ治ムル職ヲ定メ給フ是ヲ國造ト云神武天皇定功行賞之時、以珍彥爲倭國造劍根爲葛城國造予思フニ太古草昧ノ時民ミナ禽獸ノ如クナリシヲ國造爲メニ其居處ヲ定メ家室ヲ營シ衣服ヲ制シ田ヲ開キテ佃ル事ヲ教ヘナド其民ノ世話シテ一國ヲ仕立ル事ヲ造ト云(始メテ田地ヲ開墾シ一村ヲ成ス百姓ヲ草分ト云カ如キ類ナリ)或ハミヤツコト訓スルハ上世鬼神ヲ尚ブ風儀ナル故、宮ニツカフル義ナリト(東雅ニ云ミハ御ナリ、ヤツコハ僕也臣也造トハ其物事ヲナシヌル官長ヲ云ト按ル)ニ伴造刑部造水取造矢田部造ナド其官其事ヲ造リ始シヨリ起リ後其義ノ轉ゼシナルベシ(增)古事記傳云國造ハ何レモクニノミヤツコト訓ムベシ其由ハマヅ上代ニ諸仕奉人等ヲ總舉ルニハ臣連伴造國造ト並云ヘリ敏達天皇紀ニ臣連二造トモ有テ二造者國造伴造也ト註セリ扨其國造ハ諸國ニテ其國ノ上トシテ各其國ヲ治ムル人ヲ云尸ナリ(今云尸ハ姓ノ稱ナリ)サレバ二造同義ニテ名義ハ御臣ナリ推古天皇紀ニハ國造ヲクニ

ノヤツコトモ訓リ○神武天皇ノ後國ノ開ルニ隨テ國造ヲ任シ和銅ノ頃ニ至テ國造百四十四アリ（増）古事記成務天皇卷ニ定賜大國小國之國造ト舊事記國造本記ニ所載百二十四類聚國史云自皇極國造モ多ク此御世ニ定給ヘルナリ

天皇御宇始テ以國造改國司（増）此ニ引ル類聚國史異本ニシテ謬傳多シ日本紀ニ據ルニ孝德天皇大化元年改新ノ詔ヲ發セラレシ時ヨリ國造ヲ改テ國司ヲ置シナリ○或ハ云前ニ此仁德雄略崇峻ノ世已ニ國司ノ名ヽユ然トハ皇極帝ノ時始テ國司ト改ルニ非スト予謂ノ吾邦風儀凡ソ事一時ニ改革スルハ少キナリ其漸アリテ後余シテ一統ニ定メ云事ナリ皇極帝ノ時詔シテ諸國一統ニ國司ヲ任シ給ヒシヲ以ニ國造改國司ニ記セリ其文太簡ナルヲ以テ然ドモ國司國造ト連稱スル事國後人疑ヲナスノヽ史所々ニ見エタレバ國造此時ニ全廢シタルニ非ス但一國奉幣使又大社ノ神主ナド為シテ兼テ其神領ヲ治シナル可シ豐總耳太子十七憲法云國司國造勿斂百姓ナド古ハ神領甚タ多シ國造モ民事ニ與ル事知ルベシ（増）古事記傳云孝德天皇ノ御世ニ至テ古ノ御制ヲバ皆改メラレテ國造等ヲバ擇ビテ其國々ノ郡ノ大領、少領、ナドニ任サレシ事書記ノ彼御卷ニミエテ其ヨリ後多ク然ナリ三代實錄五ニ孝德天皇、世ニ國造之號永ク從ヒ停止トアルハ違ヘリ彼御世ニ其制ヲ改メラレタルニコソ有レ國造ト云号ハナホ其后モ國々ニ有シヲヤ又世ニ國造ト國司トヲ一ツ物ノ如ク心得タルモ非ナリ國造ハ世々其職ヲ傳ヘテ其國ニ在シ者國司ハ京ヨリ下サレテ年限アリテ替ル趣異ナルヲヤ又孝德ノ御世ニ國造ヲ改メテ國司トセラルト云モ違ヘリ其ハ國造ノ治ヲ改メテ國司ノ治ニセラルトコソ云ベケレサテマレ〻ニ神社ニ遺レル事ハマ〻又後世ニ國造ト云號ノシヲ孝德ノ御世ヨリ國政ハ國司ノ知ル支トナレドモ國ノ神事ハナホ元ノマヽニ國造ノ知リ行フ御制ニテ續紀ニ為班大幣ヲ馳驛進諸國國造ヲ入京ニナドモ見エタリ其外ニモ國造ノ神事ニ預ル支諸書ニ多ク見ヘタリサレバ其制

ノ遺リテ后終ニハ全神職ノ如クナレルモノナリ故既ク類聚國史ニモ此ヲ神祇部ニソ收ラレタリケル

○伊豆國造ハ若建命ノ後天正十四年夏四月賜ニ外從五位下日下部直益人伊豆國造伊豆直姓紀下同之（増）續日本實亀二年閏三月授ニ外從五位下伊豆國造伊豆直乎美奈從五位下（増）職官志云按國造在ニ初為ニ封爵ニ後世其子孫乃襲ニ其號ニ其號固重矣故或賜以寵旧族ト○伊豆國造ノ國史ニミエシハ唯是ノミナリ國造ノ後裔神主ニナリテ今ニ其號アルハ出雲大社紀伊日前備中吉備津ミナ國造ト稱ス此外葛城、伊勢、尾張、宇佐阿蘇等國造後孫ナレドモ國造ト稱セズ伊豆國造ナド其選書知ルヿ可カラズ（増）嘉承三年廳宣、伊豆宿禰國盛、マタ新後撰集玉葉集等ニ伊豆盛継ト其他伊豆姓人諸書ニミエタルハ伊豆國造ノ末裔ナリ別ニ考記セルモノアレハ此ニ贅セズ○或云今在廳ト稱スル者專ラ三島大社ノ祭祀ニ與リ兼テ一國式社ノ奉幣使タリ是國造家ノ傳シナラン（今ハ一國諸神ノ奉幣ハ止ミタリトモ猶奉幣使ト稱ス在廳ノ稱ハ雜部ニ考アリ）（増）在廳ハ古文書ニ留守所トアルモ同ジク國廳在留官ナ云稱ニシテ國造家ニハ有ラズ○類聚國史又曰自天武天皇御宇改國司曰國守ト按スルニ皇極ノ朝ヨリ無幾駿河ニ併セ天武朝ニ至リ復分置ス故ニ伊豆ニ國司ナシ天武朝ヨリ天平寶字八年マデ八十年ノ間國守見エズ豈駿河守兼帶セルカ抑史ノ畧セルナリ（増）天平寶字以前伊豆國守ノミエザルハ史ノ漏セルナラム（増）伊豆國司○天平寶字八年甲辰正月己未從五位下大伴宿禰伯麿為伊豆守（増）續日本紀下同之國守ノ史ニ見エタル是為始○從五位下真立王（増）天平寶字八年冬十月癸未守ニ任ス○從五位下笠朝臣乙麻呂（増）寶亀元年庚戌五月庚午守ニ任ス○從五位下紀朝臣犬養（増）寶亀三年壬子九月庚子任ス同五年甲寅六月再任ス○外從五位下村國連子老寶亀五年甲寅三月甲辰守ニ任ス○從五位上石川朝臣人麻呂（増）寶亀八年丁巳正月戊寅守ニ任ス○外從五位下葛

井連根道（増）寶亀十一年庚申○外従五位下田邊史淨足
三月壬午守ニ任ス
（増）延暦元年壬戌○外従五位下吉田連李元（増）延暦三年
八月庚申守ニ任ス
セ守ニ任ス○従五位下縣犬養宿禰継麻呂（増）延暦七年戊辰
（増）延暦二月甲申守ニ任ス
従五位下御長真人仲継大同元年丙戌二月丁酉守ニ任ス日本後紀下同之（増）従五
位下大伴宿禰人益大同元年丙戌二月庚戌守ニ任ス（増）正四位下藤原朝
臣真夏弘仁元年庚寅九月丁未守ニ任ス（増）従五位上磯野王弘仁元年庚
守ニ任ス（増）従五位下氷上真人河継弘仁三年壬辰正月辛未守ニ任ス（増）外従五
五位下毛野公清端承和元年甲寅正月癸未守ニ任ス續日本後紀下同之（増）外従五
位下飯高宿禰常比麻呂（増）承和七年庚申正月己亥守ニ任ス○従五位上
高原王（兼和七年庚申三月辛丑守ニ任ス續日本後紀）仁壽二年壬申十一月己亥再任ス（文德實録）（増）外

従五位下神服連清継（増）兼和十二年乙巳正月戊午守ニ任ス續日本後紀下同之（増）外
従五位下高村宿禰武主嘉祥二年己巳二月壬子守ニ任ス（増）外従五位下
百濟宿禰康保補任年月不詳齊衡元年甲戌冬十月壬子朔甲戌公卿奏議伊豆前守外従五位下百
濟宿禰康保毆殺部下百姓數人康保罪當死詔減一等處之遠流文德實録下同○津宿禰良友齊衡三年丙子三月
丙辰守ニ任ス○従五位下善世宿禰豊永（増）天安元年丁巳九月辛
酉守ニ任ス○外従五位下善道朝臣継根（増）貞觀三年辛巳■■■■
■■■■任ス類聚國史下同之○外従五位下長岑宿禰恒範■■■■（増）貞觀八年丙辰守ニ任ス（増）外従
五位下善道朝臣根延貞觀十二年庚寅正月戊寅守ニ任ス三代實録下同之（増）外従
五位下山口朝臣岑世元慶三年己亥二月丙午守ニ任ス○紀長谷雄寛平四年
熱海舊記○平將武承平中扶乘畧記（増）按ニ兼平中平將門偕シテ平將武ヲ伊豆守トス○菅原

氏亂天慶二年○平立身天慶四年同上○秦永時安和三年同上
伊豆山記　（増）按ルニ紀長谷
雄菅原氏亂平立身泰永時等ノ伊豆守タル支他ニ証
ナケレハ疑ナキニ非ス暫ク旧ヲ存シテ後攷ヲ俟ツ○
高階信順（増）長德二年丙申八月十
日權守ニ任ス日本紀畧　（増）■■■盛雅補任年月
抄○從五位下藤原惟信康和中朝不詳百練
三島宮司伊豆　（増）高階朝臣■■■康和
國盛輔任文　○從五位上大江通國大治中○從五位下源
賴盛共ニ見ル賀茂郡修福寺佛經跋文此ニ名他ニ所見ナシ　（増）小野五友補任不詳今昔物語○
藤原爲賴康治二年本朝世紀　（増）平義範保元三年戊寅十一月廿六日安房守ヨリ伊豆守ニ轉
ス人車記　（増）藤原經房補任年月不詳保元三年戊寅十一月廿
六日伊豆守ヨリ安房守ニ轉ス同上
三位源賴政平治中　（増）藤原爲綱補任年月不詳平盛衰記　（増）藤原爲憲補任年月不詳伊東系圖○從
○從五位上源仲綱承安中百練抄　（増）鎌倉大雙紙云伊豆國

ハ昔ヨリ源氏重代ノ國ナリ源賴政仲綱己後賴政子孫
代々守護タリト君澤郡禪長寺所藏系圖ニ因ルニ賴政孫
賴兼曾孫公綱賴兼子賴貞子政國政國子政義政義
子賴氏賴氏子國義國義子詮賴ミナ伊豆守ト稱ス蓋守
護職ナリ○從五位下源義範文治中（増）大日本史山名時氏傳ニ
三郎從源賴朝擊平氏有功授伊豆守尊卑分八世祖義範新田義重子稱山名
脈山名系圖東鑑トアル義範同人ナルベシ○武田信光
貞永中（増）守護職ナリ鎌倉大雙紙云二位禪尼ノ御時武
田信光此國ヲ給ハリ十二年程居住アリト（増）本州ハ下
國ニシテ國介ヲ置ザル例ナリ（大寶令）然ルニ三島文書嘉
永三年正月介大江朝臣建長元年十月大介藤原朝臣ト
アルハ後ニ制度ヲ改メラレシモノナルベシ此ニ附記シテ後考ニ備フ○此外伊豆守十數
人アレドモ任國ノ年知レザル故不載ナホ後ノ補正ヲ
俟ツ此以後ハ伊豆守ト稱スレドモ多クハ有名無實徒
ニ稱號トセリ鎌倉ノ時ヨリ守護ヲ置シモ其人皆詳ナ

ラス（増）守護地頭ノ始ハ神皇正統記ニ白河、鳥羽、ノ御時ヨリ新立ノ地愈多クナリテ国司ノ知ル所百ガ一ニモナリヌ後ザマニハ国司任ニ赴ク事サヘナクテ其人ニアラズ眼代ヲニハ国ヲ治メシカバイカデカ乱国ト名ザラム況ヤ文治ノ始メ国ニ守護職ヲ補シ荘園郷保ニ地頭ヲ置レシヨリ以来ハ更ニ古ノ姿ト云事ナシ追討ノ大功ヲ賞セラレ後白河院ヨリ征夷将軍ノ宣家ヲ蒙リ正二位右大将ニ任シ剃髪シテ六十六箇国ノ総追捕使ニ補セラル因幡前司廣元申旨アリテ諸国ニ守護ヲ置テ国司ノ威ヲ押ヘ荘園ニ地頭ヲ屈テ本所ノ掟ヲ用ヰズ王道是ヨリ磨ギ日ヲ追テ衰敗シ武威マスマス盛ニ成シテ月ニ隨テ昌榮ス（増）足利基氏鎌倉管領トナリ其執事上杉憲顯ヲ以テ守護トス大日本史、上杉憲顕傳、正平四年足利基氏為東国管領興高師冬並為執事、輔之授上野越後伊豆主護（大平記上杉家譜）正平中憲顯帰順（○畠山国清義深伊豆ノ守護トナル（増）鎌倉大雙紙云畠山阿波守国清其弟尾張守二代闕東ノ執事ニテ此国、守護トナルト（増）康安中国清義深等叛キ憲顯復足利氏ニ降リ本州ノ主護タリ（○室町ノ頃ハ守護代ト稱ス永享十年鎌倉ヘ討手下リシ時伊豆守護代寺尾四郎左衛門具重案内シタル支アリ（増）寺尾四郎左衛門ハ三島文書醍醐文書ニモ見エテ長ク伊豆主護代タリシ人ナリ而曰国造、曰国司、曰国守曰守護曰守護代其職掌皆同ジ一国ヲ世話スル役名也但シ守護以下其法制ハ頗異ナリ（増）其後長禄元年、山内房頭、知ヲ堀越、館ニ奉シテ關東ニ號令ス延徳中、政知卒シ内乱起ルニ及ビ北條長氏襲撃テ堀越ヲ陷レ韮山ニ居城シ闔州ヲ併ス天正ノ頃北條氏規韮山城ニ居テ上方ニ備フ十八年豊臣氏東征北條氏亡ビ本州徳川氏ニ帰シ内藤信成ヲ韮山ニ封シ戸田忠次ニ下田ヲ與ヘ（藩翰譜云天正十八年八月信成伊豆国ニ於テ一万石ヲ與ヘラレ韮山城ニ住ス武徳編年集成云韮山一万石内藤三左衛門信成下田五千石戸田三郎左衛門忠次梅縄五千石

石川日向守家成市原郷五千石阿部伊豫守正勝トソノ他三島代官ヲ置テ管セシメ交代以テ相繼クニ至レリ

㊒膽乘巻四、伊豆縣令（所謂三島代官）ヲ載タリ此ニ附記シテ参攷ニ供ス○伊奈熊藏忠次自天正十八年庚寅十月至慶長六年辛丑迄十二年○一云井出甚助正次自天正十九年辛卯至慶長五年庚子迄十年ト○彦坂小刑部光政（政一作正）自慶長六年壬寅至慶長十年乙巳迄四年（一ニ云自文祿三年甲午國中撿地アリ自慶長八年癸卯至同十一年丙午四年支配ス○井出志摩守正次（甚助ノ事）自慶長十一年丙午至同十四年己酉二月迄四年（亦撿地アリ）○井出藤左衛門正信（一ニ云佐野平兵衛正重ト）自慶長十四年己酉至元和六年庚申迄十二年○揖斐與右衛門政景（景一作良）自元和七年辛酉至寛永二年乙丑迄五年○小林重郎左衛門重吉自寛永三年丙寅至同十二年乙亥迄十年○小林彦五郎自寛永十三年丙子至同十八年辛巳迄七年○伊奈兵藏自寛永十九年壬午至寛文五年乙巳迄廿四年○伊奈兵右衛門自寛文六年丙午至天和三年癸亥迄十八年○竹内三郎兵衛自貞享元年甲子同三年丙寅迄三年○五味小左衛門自貞享四年丁卯至元禄七年甲戌迄八年○設樂喜兵衛自元禄八年乙亥至同十三年庚辰迄六年○小長谷勘左衛門自元禄十四年辛巳至寶永四年丁亥迄七年（一云自元禄十三年庚辰至寶永六年己丑迄十年ト）○小林又左衛門自寶永五年戊子至正徳四年甲午迄七年（一云自寶永七年庚寅至正徳三年癸巳迄四年ト）○河原清兵衛自正徳五年乙未至享保十年乙巳迄十一年○山田治右衛門自享保十一年丙午至同十四年己酉六月迄四年○齋藤嘉六郎自享保十四年己酉至寛延元年戊辰迄二十年○大屋木杢之助自寛延元年戊辰至同二年己巳六月○山本平八郎自寛延二年己巳至寶暦八年戊寅八月迄十年○伊奈半左衛門自寶暦八年戊寅九月至同九年己卯五月○江川太郎左衛門自寶暦九年己卯五月脩治韮山ニナルト○下田城主戸田尊次参河田原ニ移封後下田代官ハ彦坂小刑部大久保石見守彦坂九兵衛竹村九郎右衛門ト又下田奉行ハ今村彦兵衛（弘誓寺制札今村長十郎昌家トアル同人カ）自元和二年丙辰至寛永四年丁卯迄十二年○今村傳四郎（彦兵衛嫡男）自寛永四年丁卯至同十五年戊寅迄十二年○石野八兵衛自寛永十五年戊寅至寛文八年戊申迄三十一年○今村傳三郎（傳四郎子）自寛文八年戊申至延寶六年戊午迄十一年○今村彦兵衛（傳三郎子カ）自延

寶六戊午至天和三年癸亥凡六年○服部久右衛門自天和三年癸亥至元禄三年庚午凡八年○高林彌市郎自元禄三年庚午至同九年丙子凡七年○山口勘兵衛蔭山勘解由自元禄九年丙子至寶永元年甲申兩人隔年ニ勤ル九年后蔭山氏召レ山口一人ニテ勤ムト○岡田佐太郎自寶永三年丙戌至同四年丁亥凡二年○酒井與九郎自寶永九年戊子至正德元年辛卯凡四年○深津八郎右衛門自正德元年辛卯至同三年癸巳凡三年○北條新右衛門自正德三年癸巳至同五年乙未凡三年○板橋五太夫自正德五年乙未至享保五年庚子凡六年○堀隱岐守自享保五年庚子二月至同六年辛巳此年水關浦賀ニ遷リテ下田ハ浦賀奉行ノ所管トナルト（增）明治維新以來本州ノ治革ハ縣治紀事本末ニ詳ナリ就テ見ル可シ

○租調庸（增）附莊園、武家役、賈高、石高、及別、租稅、國稅、地方稅、

凡百姓ノ上ノ令ニ供スル所ノ者三ツ有リ（增）所謂、租、調、庸是ナリ按ル調役ノ事ノ史ニ見エタルハ日本紀、崇神天皇十二年春三月詔、宜當此時始校人民令知長幼之次更科調役此謂勢之强調女之手末調古事記、同天皇段於是初令貢男弓端之調女手末之調トアルソ初ナル其後雄略天皇紀十六年秋七月詔云々使獻庸調古語拾遺同天皇段諸國貢調年々盈溢更立大藏仁德天皇紀四年春三月詔云々自今之後至于三歲悉除課役ナドミエタルカ孝德天皇紀大化二年從前ノ制ヲ改メ全國ノ人民ニ口分田ヲ班チ田ヨリハ租ヲ出サシム家ヨリハ調ヲ出サシメ人ヨリハ庸ヲ出サシム是即租調庸ノ始ナリ租ハ田租ナリタヂカラト訓ズ務メ米穀ヲ收ル故租ヲ奉ル租ハ年貢米ナリ孝德天皇紀大化二年丙午春正月甲子朔宣改新之詔曰云々初造戶籍計帳班田收授之法凡五十戶為里每里置長一人掌按檢戶口課植農桑禁察非違催驅賦役凡田長三十步廣十二步為段十段為町段租稻二束二把町租稻二十二束田令義解曰田賦為租也段地穫稻五十束束稻卷得米五升也即於町

須得五百束也ト其後文武天皇慶雲三年庚寅秋九月丙辰遣使七道始定田租法町十五束トアリテコノ時令前ノ租法即段租稲一束半町租稲十五束ニ復セラル延喜式ニ載ル所ミナ此定ナリ

○調ハミツギト訓ズ本軍役ニ士卒ヲ調發スルヨリ起リタル名ニテ其所ノ産物ヲ貢シ上ノ御用ニ供スル也田租米穀ノ外ニ金、銀、珠玉、皮革、羽毛、錦、罽、羅、穀、紬、綾、布、帛、絲、綿、ナド又調ノ副物ト云アリテ一切入用ノ諸色、鹽、酒、茶、紙、油、蠟、炭、薪、菓、菜、魚介、器用、藥物マデ奉ルナリ（大抵土産ノ十分一ヲ奉ル今十分一ノ征アルハ此法ナリ）㊐租調庸ヲ總合セテ十分一ヨリ輕キモノト見テ違ヒナカルベシ

㊐賦役令曰凡調絹、絁、謂細為絹麁為絁也絲、綿、布、隨鄉土所出、正丁一人、絹、絁八尺五寸六寸成疋、長五丈一尺、廣二尺二寸絲八兩、綿一斤、布二丈六尺並二丁成絇也端、謂絲十六兩曰端也、端長五丈二尺、廣二尺四寸、若輸雜物者云々次丁二人中男四人並准正丁一人其調副物正丁一人云々

○天下ノ百姓年二十一ヨリ六十マデナリ六十一ヨリ六十五マデナリ六十ヨリ二十マデナルヲ云ノ内ヲ正丁ト云㊐次丁トハ六十ヨリ十七ヨリ課ロニ入リ六十五マデノ間ハ調庸ヲ課セラルト殘疾者トヲ云中男ハ十七ヨリ二十マデナルヲ云十七ヨリ課ロニ入リ六十五マデノ間ハ調庸ヲ課セラル其内中男ハ調アリテ庸ナシ㊐雜物副物等ノ物品ヲ一人別ニ皆出スニ非ズ何ニテモ其鄉土ヨリ所出ノ物一品ヲ貢ル例ナリ

○庸ハ夫役ナリ

㊐即エダチナリ庸布ハチカロシロト訓ズ㊐賦役令曰凡正丁歲役十日次丁二人同正丁若須收庸者布二丈六尺謂其收庸者須隨鄉土所出不可以布為一例一日二尺六寸須留役謂正役之外更亦留役也者滿三十日租調俱免役日少者計見役日折免謂租調混合揔作三十分以役日折免也通正役並不得過四十日次丁二人同一正丁一年夫一役正丁一人十日ト定メ御用アリテ十日ノ勤ヲナセバ其身一年ノ役スムナリ若御用ナクシテ使ハサレバ一

日分布二尺六寸十日即二丈六尺一端ヲ出ス是ヲ庸布ト云（増）調庸攷ニ令ノ制調庸共ニ課ヲ均クス正丁一人調布二丈六尺副物アリ庸モ亦布二丈六尺ヲ收ム文武天皇慶雲三年庚寅勅アリ庸ハ准令正丁歳役收庸布二丈六尺當欲輕歳役之庸息人民之乏並宜減半云々永為恒式トミエテ庸ハ調ノ半數ニナレリ故延喜式ニ載ル所庸ハ凡テ調ノ半ナリ正丁一人調米六斗ニシテ庸米三斗ハ調鹽三斗ニシテ庸鹽ハ一斗五升ナリ次丁ハ此ヲ半減スマタ孝謙天皇天平寶字元年丁酉夏四月詔アリテ年十八ヲ中男トシ二十二以上ヲ正丁ト定メラレ同二年戊戌秋七月マタ六十ヲ老丁トシ六十五ヲ耆トセラル是ヨリ後十八歳ヨリ二十一歳マデ中男トシ二十二歳ヨリ五十九歳マデヲ正丁トシ六十ヨリ六十四歳マデヲ次丁トシ六十五ニ至テ不課ロトナル前後通ジテ四十七年課ロタリ令ノ定ニ比スレバ二年ヲ減セリト大略斯ノ如シ次ニ掲クル延喜式ノ所載ニ因リテ本州租調庸ノ數目ヲ知ル可シ

（増）租

○伊豆國、正稅、公廨、各六萬五千束、三島神料二千束、國分寺料、一萬束、大安寺料、三千束、禪院料、一千束、國分二寺供養料、一萬束、三神寺料、二千束、文殊會料一千束、修理池溝料、一萬束、救急料、一萬束（延喜主稅式○和名類聚鈔曰田二千百十町四段百十二歩、正、六萬五千束、公、六萬束、本稻、十七萬二千束、雜稻、四萬七千束（増）拾芥抄曰田二千八百十四町）（増）調物

○伊豆國（行程上廿三日下十一日）調、一窠、綾三匹、二窠、綾二匹、冠羅一匹、絁、帛十五匹、皂、帛十匹、隨時損益自餘、輸絁、堅魚、（主計式）（増）庸

○輸布○中男作物、木綿、胡麻油、堅魚煎汁○貢夏調、絲者麁絲○輸絁（主計式）（増）別貢雜物、副物、○年料別納、租穀一千五百石、（民部式下同）○年料別貢雜物、零羊角四具、甘葛汁二斗○貢蘇七壺、並小一升○交易雜物、猪皮十張、鹿皮三十

張、堅魚煎汁一石四斗六升、擂子四合、民部式○例貢、御贄、甘葛煎宮内式○貢進、菓子、甘葛煎二斗、大膳式○年料供進擂子四合内藏式○貢進、堅魚煎汁一斛四斗六升、以中男、作物、内膳進之式○送納調、庸、水綿二百六十二斤、堅魚二百十二斤、堅魚煎汁四斗齋宮式○伊豆紀伊両國以神税、交易、所進祭料、雜皮八十五張、伊豆國熊皮五張、猪皮十張、鹿皮三十張、「宮主取ト部堪ル事者、任スル之其ト部取三國ト術優長者伊豆國五人臨時祭式○健児三十人○器仗、甲一領、横刀三口、弓冊張、征箭冊具、胡籙冊具、兵部式○年料雜藥、十八種、藍漆四斤六兩、商陸、白石脂、各五斤、白薇七斤、防風十五斤、水斛三斤、石斛十一斤、瓜蔕五兩、木防已赤石脂、各十斤、黄礬石二斤一兩、樞子、薯蕷、蜀椒、各一斗、桃仁一斗一升、決明子二升、萆薢子一斗、牡荊子四升典藥式○增運漕雜物賃伊豆國六十束主税式

㊐其ヨリ後ノ沿革ヲ記サン二中葉諸國ニ莊園起リテ遂ニ國務ヲ妨ルノ弊ヲ生ジ其原藤原氏天下ノ大權ヲ執リ封戸功田賜田ヨリ園莊田地ヲ多ク占有セルヨリ起レルナリ延喜二年三月官符應禁斷諸院諸宮王臣家假武私宅號莊家貯積稻穀等物事右諸院諸宮王臣家於諸國部内或本有田地自立莊家或新占山野收其地利因此等一度各求便宜借貸武私宅積聚稻穀等物号稱莊家好妨官物國史之力不敢制止出舉收納不能自由公事難濟職此之由類聚三代格ト以テ既ク其弊害アリシヲ知ルベシ是ヨリ後漸々盛ニナリ後三條天皇延元元年二月廿三日勅寛德二年以後新置莊園一切罷之雖在二年前券契不明妨國務者且停止焉百練抄カク停止セラレシカト其事終ニ行レズ白河

鳥羽ノ御時ヨリ新立ノ地愈多ク國司ノ知ル所百ガ一ニナリヌ（神皇正統紀）六條天皇仁安中ヨリ平清盛國權ヲ姿ニシテ自奉ズル所諸國ノ莊園五百余箇所ニ及ビ國々ニテハ軍粮ニ託シテ正稅ヲ押ヘ莊園ヲ侵シ終ニ皇政ノ頽廢ヲナセル事諸書ニ見エタルガ如シ

文治中源頼朝奏請シテ諸國ニ守護ヲ置キ莊園ニ地頭ヲ置テ常賦ノ外段毎米五升ヲ課スルノ制ヲ設ク是ヨリ貢租ノ法一變シテ遂ニ收斂苛酷ヲ究メタリ

玉海（日本史所引）ニ文治元年十一月二十八日頼朝遣北條時政護衛京師法皇以頼朝請置守護地頭於諸國以備盜賊常賦之外計畝課兵糧自是兵權一歸頼朝（マタ東鑑ニ補任諸國平均守護地頭不論權門勢家公莊可宛課兵粮米云々同二年ノ条ト五畿山陽山陰南海西海二十六國段別米五升ヲ課スト）

アリテ正稅ノ外軍粮五升ヲ新ニ武家ニ收メ二重ノ年貢トナレリ玉石雜志ニ鎌倉幕下ノ制ニ五十分一ノ守護役トナレリ一段ノ地ヨリ五升ノ米ヲ其國ノ守護ニ收ムル是ナリ之ヲ守護兵糧料トモ云フサレバ伊豆國田二千八百十四町（拾芥抄）ノ段別五升ハ千四百七石ニテ今數千三百六十二石三斗一升今俵法三千八百九十二俵一斗寄ヲ伊豆守護職收納高トスト其后ハ東鑑ニ實朝ノ時関東諸御領乃貢可被免三分ノ二ヲ云々コノ時代ノ租稅凡地頭四分百姓六分地頭四分ノ内一分ヲ朝家ニ貢納ス是ヨリ四公六民ノ法起レリ（祖調攷）ト足利氏ニ至リ皇統南北ト分レ天下擾乱ノ際國々ノ租貢運上ノ路絶エテ闔國ノ稲穀總テ地頭ノ有トナリ終ニ檢地收斂ノ法ヲ立ツ尊氏使細川和氏監諸國租稅之事和氏悉押公家領以為武士軍忠之食祿於是師直等私領皆傚和氏之所為（將軍家譜）尊氏諸國ノ守護ヲシテ五十分一ノ軍賦ヲ輸セシヲ高經執事タルニ及テ更ニ令ヲ下シテ二十分ノ一ヲラシム（異本大平記）ト其ヨリ後ハ世澆末ニ及ビ武家欲深クシテ百姓年中ノ耕作ヲ檢地シ四モナキ所ヲバ五ッアリト云カケテ取ルコノ外夫錢、揀別野山ノ役ヲカケアラユル程ノモノヲ押テ取ル（北條五代記）ト以其横欲ノ大概ヲ知ル可シ諸村存セル古文書中夫錢、段錢、揀別、陳夫、等ノ名稱ミエタリ而シテ田地ニ貫高ト云事起リ町段歩ニ大小半ノ稱アリキ

駿河志料曰東鑑建暦元年十二月二十七日條明春駿河武藏越後等國々可作整太田文之由被仰行光清定マタ此時貞應年中武藏前司入道日本國太田文ヲ作ルナレ可シ太平記ニ天正以前檢地ノ事ナト云フ田數大トモ小半ノ稱ヲ用ヰシモ太田文以來ノ事ナルヲ以テ稱ス猶ト北條氏役高帳ソノ他本州貫高ヲ記ヒ足利氏ノ時ニ始テ足利ノ者少カラス云々

地方書類ニ貫高ハ北條氏ノ末ニ起レリ專ラ田地千坪ノ貫數ヲ用ヰタルモノナリ當昔六貫一疋ト一騎ニ付テ勤メタル足利氏ノヨリ中頃ニ關東永樂錢多ク貢米ヲ永錢ニテ收メタルヲ勤メタル氏ノ起レリ

定メ六千坪六貫ノ地ヨリ軍役ニテ上方ニ無クリ始レノ中ハ國中ニ故ニ

稱ル永高ハ關東ヨリ尾州ヲ限リテ攻合ノ二ヒ田百數大小半ハナ

永高ハ一般ニ行ハレタリ一段三百六十坪ニシテ有ルヲ三分ノ一即百二十坪小ハ三分ノ一段ノ半即百四十坪ハナリ本州天正以前ノ文書中往々見ル呼ニ同

ヲ檢地一段三百六十坪ナリ檢地ノ文禄中豊臣秀吉總檢地ノ令ヲ下シ田數ヲ改メ貫高ヲ

ヲ停メテ石高トセラル徳川氏マタ此制ヲ襲用シテ收租ノ法ヲ立テ明治改新ノ時ニ至レリ天正以前檢地ノ塩尻ニ天文二十二年三月將軍義輝諸國ノ守護人ニ令シテ國々ノ所領ヲ糺シ日記ヲ以テ言上セシム高木光資上野晴時諸國ノ帳ヲ請取テ之ヲ改ム世ニ天文縄ト云ハ是也（續日本史同之）ト君澤郡長濱村ニ天文十二年北條氏康ノ命ニテ大草但馬守檢地ノ野帳、檢地書出等存セリ（二十二年ト十二年ノ異ハアレド）同シ事ナル可シ豊臣氏ノ時日本總檢地アリシト云事ハ世ニ傳ル所ナルガ本州諸村往々天正十八年十九年檢地帳（德川氏ノ代官伊奈熊藏縄打）文禄三年四年檢地帳（彦坂小刑部縄打）存セルヲ以テ証ス可シ和調攻ニ天正年中豊臣氏文禄四年秀吉諸國ノ田畑悉檢地シ餘分ノ賦税ヲ收公セラルベキ旨令アリ（家忠日記ト天正ヨリ文禄ニ渉リ）諸國ヲ檢地セシナル可シ豊太閤古法ヲ憂シ三百六十歩一段ヲ此時三百歩ニ縮メテ一段ノ取米ハ猶三百六

十歩ノ法ヲ用ヰラレシニヤ然ラデハ八百萬石ノ高打出スベキヤウナシ文禄四年豊臣氏九箇條法制ノ中ニ天下之賦税三分二者地頭取之三分一者百姓自取之ト(田一段ノ稲一石六斗五分摺ニシテ八斗ヲ出スナレバ尤一強キ取箇ナリ)云々徳川氏ニ至リ慶長ノ頃ヨリ諸國撿地アリ此時六尺一分ノ竿ヲ用ヰ(豊臣氏ハ六尺三寸ノ竿ヲ用ヰシト)畝法ハ豊臣氏ノ制ニ從ヒ三百歩ヲ一段トシ一村ノ米辻(即チ分米ニテ田畑ヨリ取揚ル總米高)ヲ以テ村高トス是今ノ石高ナリ取箇法四公六民五公五民國所ニ因リテ同シカラズ鎌倉ノ三分一室町ノ十カ四豊臣氏ノ三カ二徳川氏ノ五公五民六公四民ナドノ租法救納米納トナリ浮役諸運上ナド種々ト課役ノ條目起リテ世ノ代ル毎取増ノミニテ減ズル事ナシ心アラム人既往ヲ考ヘテ将来ヲ制スベシト猶地方書類ニ就テ其詳細ヲ窺フ可シ

天正以後本州ノ石高ヲ記セルモノハ易林節用集、倭漢三才圖繪(伊豆國下管三郡田數二千八百十四町知行高九萬九千三百五十三石ト)其他往々見ル所ナリト雖何モ因據詳ナラザレバ之ヲ取ラズ今其正確ナルモノヽミヲ次々掲ゲテ參攷ニ供セムトス

正保年中調査 同年度調製ニ係ル伊豆國繪圖所載ナリ其他年號不詳國圖アリ各大同小異トス

(増)高七萬九千六百五拾三石壱斗八升八合 君澤郡二万千五百三十八石四斗六升四合田方郡二万四千八百九十一石一斗五升四合賀茂郡二万九千百五十一石三斗四升二合那賀郡四千七十三石二斗一升(増)年號不詳一書ニ高八万八百三石余、村数二百九十一ヶ村、家数一万二千七百七十軒、人別六万人余、神社六百九十二所、寺院三百九十八所、堂庵二百五十所、ト案ズルニ負享、元禄ノ記載ナルベシ

元禄十五年壬子調査 同元年調査(地方大概集等所載)同九年調査(村高比較表所載)ミナ同之

(増)高八萬三千七百九拾壱石貳斗八升貳合三勺五撮 君澤郡二万二千七百九十三石三升四合九勺、村数七十三、田方郡二万五千七百六十五石三斗九升一合、村数七十七、

賀茂郡三万六百二十八石八斗七升九合四勺五才、村数二十百五十一、那賀郡四千六百三石九斗七升七合、村数六、村数總計三百二十七ト其過多ナルハ枝村ヲモ計入セル故ナリ奥書元禄十五年壬午七月井上大和守、安藤伊豆守ノ連署アリ伊豆鑑一書

筑後守松前伊豆守、久貝因幡守ノ所載四郡總高八万三千八百十九石八斗六升六合

五才ト按ズルニ元禄後ノ記載ニ係ルモノナル可シ

寛政十二年庚申調査本書村里部所載總計ナリ同五年出板伊豆國村邑高附大同小異トス

(増)高八萬四千七百九拾貳石壱斗五升三合撮君澤郡二万二千

千七十石四斗六升八合一勺六才村数六十九田方郡二万五千八百三十九石九斗一升一合六勺八才村

万五千九百七十六石六斗八升三合六才村数十六田方郡二

茂郡三万九百二十一石五斗八升五合二勺五才村数十七那賀郡四千五百五十六石一斗五升八合八勺八才村数百二十七那賀郡四千五百五十六石一斗五升八合八勺八才村数十七總

計二百七十九

計二百八十四

天保五年甲午調査天保郷帳所載村高比較表地方大概集同之但大概集天保七年改正ト記セリ

(増)高八萬四千百七拾壱石貳斗九升三合六勺貳撮君澤郡二

万二千九百四石六斗二升六合五勺六才村数六十九田

郡二万五千八百三十九石九斗一升一合六勺八才村

数七十一賀茂郡三万八百十一石五斗五升八合八勺八

才村数百二十七那賀郡四千六百十五石一斗九升六合

五勺村数十七總

計二百八十四

明治四年辛未調査石高及租税縣治紀事本末所載ナリ

簿下ノ領知逐次上知セリト雖ナホ菊間西端二縣ノ如キ依然舊藩領ヲ管シテ辛未廢縣ノ年ニ至レルヲ以テ其以前總高ナ明瞭ニスル事ヲエザリシガ四年ニ至リ始メテ一縣ノ所轄ニ帰シ全國ノ總石高及貢税ヲ計算スルヲ得ルニ至レリト

(増)高八萬三千八百九拾四石貳斗五升貳合八勺

(増)貢租米壱萬千六百九拾四石四斗三升七合

㊐永七萬七千六百壱貫四百八拾五文八分内社寺領分米百十七石五斗四升三合五勺永八百八十一貫九百十七文三分五厘

同七年甲戌調査反別租税マタ紀事本末所載ナリ是ヨリ前五年九月大蔵省第百廿六弗ヲ以テ地券渡方規則ヲ領タレ同六年六月田畑石高ノ稱ヲ廢シ総テ反別ヲ以テ換用スベキ旨ヲ達セラレ同七月地租改正ノ詔ヲ下シ給ヒ改正條例及地租改正施行規則ヲ頒チ地租ヲ改メテ地券ニ記スル地價百分ノ三ヲ以テ徴收スルノ制ヲ立給フ

㊐反別八千三百七町五反六畝廿九歩三厘貳毛内反別二町六反三畝十九歩新規反別百二十九町六反八畝十一歩二厘反高大縄流作場二

㊐租税米貳百四拾三石七斗七升六合正米納㊐米貳萬六千八百七拾八石六斗六升四合石代納此代金十九万五千九百四十五圓四拾八銭

貳拾九圓七拾壱銭四厘雑税及定規有之諸税同八年乙亥ノ調査（大蔵省租税簿所載）同之同年九月第百四十号従来ノ租税賦金ヲ國税地方税ノ二欵ニ分ツ云々ヲ達セラレ其后数回ノ達アリテ十七年三月第七号布告ヲ以テ地租條例ヲ制定シテ六年第七十二号布告地租改正條例及地租ニ関スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノヲ廢セラル地租ハ地價百分二箇半ヲ以テ一年ノ定率トナルニ因テ徴收セラル

同十九年度ノ調査

㊐國税　㊐地租金拾貳萬五千七百貳拾九圓五拾九銭壱厘田租八万六千八百十九圓四十銭五厘畑一万八千百四十六圓三十二銭三厘郡村宅地九千百三十三圓六十四銭市街宅地租千二百五十八圓七十八銭八厘山林原野雑種地租五千六十圓九十七銭七厘地券證印

稅二千二百六圓四十二錢六厘延納
年賦三千九十一圓三十三錢九厘 增酒造稅金壹萬六
千貳百三拾三圓貳拾五錢四厘 免許稅九百三十圓造石
八十五錢四厘自家用料酒 稅壹万四千九百十二圓
鑑札料三百九十圓四十錢 增醬油稅金三千九百五拾六
圓九拾七錢壹厘 營業稅二百六十圓造石稅三千
六百九十六圓九十七錢一厘 增菓子
稅金貳千百四拾壹圓三拾九錢 營業稅八百八十四圓五
十錢製造稅千二百五十
六圓八十九錢 增賣藥稅金貳百六拾七圓拾六錢四厘 營業稅百
十錢印紙稅五十二圓七十六錢四厘 增煙草稅金六百七拾圓拾貳錢五厘
營業稅五百十七圓五十錢印紙稅百五十二圓六十二錢五厘 增證券印紙稅金千七百
四拾八圓拾六錢貳厘 增訴訟用印紙稅金七百貳圓貳拾
六錢六厘 增船稅金千貳百七拾七圓六拾八錢西洋形船稅百十八
圓八十五錢日本形船稅二 增車稅金千三百六拾三圓貳
千百五十八圓八十三錢 馬車稅三百五十圓五十錢人力車稅三十九圓二十五錢牛車稅五十錢 增
拾五錢荷車稅九百七十三圓 增
牛馬賣買免許稅金五百五拾貳圓三拾錢 增銃獵稅金貳
百六拾三圓俱職獵 增合計金拾五萬三千六百貳拾七圓
四拾七錢三厘
增地方稅 增地租割金貳萬八千四百七圓貳拾六錢六
厘 增戶數割金壹萬千三百六拾六圓拾九錢貳厘 增營業
稅金壹萬千三百五拾壹圓四拾九錢九厘商業稅九千五
十二錢四厘工業稅千七百百九十四圓五
五十六圓九十七錢五厘 增雜種稅金八千貳百七拾五
圓拾九錢四厘料理屋稅八十四圓六十錢飲食店稅三百
十二圓十八錢一厘人寄席稅十二圓湯屋

税九十九圓六十錢理髮人税百十三圓二十五錢雇人請宿税一圓八十錢遊藝師匠税十五圓遊藝稼人税三十五圓藝妓税五百四十五圓十二錢五厘市場税四圓七厘演劇税七十圓二十六錢八厘興行税百五十七圓五十五錢八厘遊技場税百四十二圓船税六百十圓九錢三厘車税六百六十一圓七十五錢水車税五百三十六圓六十錢乘馬税十三圓五十錢屠畜税二百二圓漁業税三千百九十九圓七十六錢二厘採藻税千四百五十四圓十錢特別課税筏乘税五十錢特別課税煙火税四圓特別捕鳥税五十錢合計金五萬九千四拾圓拾五錢壱厘其后二十一年度ノ調査アレド大同小異ナレバ今之ヲ略シ後年ナホ明瞭ノ調査ヲ得テ町村部附録ニ記載スベシ又官民有地及別ノ如キモ地籍編纂ノ調査ヲ經テ後ニ之ヲ詳悉スル呀アラムトス

○里程

(増)古昔本州京師ヲ去ル里程定テ七百七拾里延喜刑部式其貢物ヲ供進スルノ行程定テ上ノ二十二日下ノ十日トス同主計式按ニ七百七十里ヲ今ノ里程ニスレバ即百廿八里十二町ニシテ一日行程十一里二十四町ニ當レリ

○自三島至西京九拾貳里(増)百一里廿七町三十間至東京貳拾八里(増)二十九里十三町十二間(増)至静岡拾六里貳拾貳町四拾貳間○至箱根三里貳拾八町(増)三里十八町十三間五尺○至沼津壱里拾八町(増)一里二十町三十四間四尺○至根府川十二里餘至足柄山嶺九里二十町至甲州山中十里

○三島ハ國府ナル故諸方ノ行程此ヨリ起ス(方位ヲ記セザル事ハ三島ハ州ノ北方ニ偏ッテソレヨリ北方ハ僅ニ數村アルノミ郷村ノ方位大畧南方ニ當ル故ナリ(増)本條載ル所ノ里程即當時ノ測量ニ係ルモノニシテ現今ト甚キ差異アラズ偶其差異アルモノハ道路ノ變更ニ因テ起ルモノニシテマタ其沿革ヲ知ルノ要トス故ニ舊ノマヽ之ヲ存シ次ニ現今ノ實測ヲ加ヘ(増)ヲ附シテ之ヲ分ツ

○官道自三島至山中村貳里七町三拾三歩(増)二里五町五十五間○

歴川原谷、冢原、市山、三ツ谷、篠原ハ諸村

自山中至相州界三拾四町（増）三十四町十間四尺

○下田路自三島至北條貳里貳町五拾貳歩（増）二里十四町至四日町

二間○歴中島、大場、間宮、新宿、原木、諸村

自北條至大仁壱里三拾壱町四拾貳歩（増）一里三十一町十間○歴寺家、中條、南條、宗光寺、御門、三福、吉田、

自大仁至湯島三里拾六町貳拾八歩（増）三里十九町三十間○歴瓜生野、小立野、本立野、大平、松ガ瀬、樹木、青羽根、下船原、月ヶ瀬、

門野原、市山、

自湯島至梨本六里（増）五里十八町廿七間○天城山嶺ヲ踰ユ草径狹窄険甚復人家ナシ嶺ヨリ一里許下水又ノ處ヨリ左ヘ入リ南モ亦嶺下一里許下水又ノ處ヘイヅ是古道ナリ

自梨本至下田三里三拾五町拾九歩（増）四里

■自大鍋越小鍋嶺歴比野○澤、茅原野、箕作、落合、河内、立野、本郷、諸村

通計拾七里拾四町貳拾壱歩（増）十七

■本郷、■岡方、■又茅原野ヨリ歴宇土金、椎原、有増、蓮臺寺、立野、下田ニ至レバ八町五十六歩近シ

■■■○但藤原山越稍嶮ナリ、又梨本ヨリ川津濱邊通下田ニ至レバ五里十一町廿六歩（増）五里十三町一間○歴湯野、下佐ガ野、筏場、澤田、田中、篠原、谷津、縄地、白濱、桁寄ハ諸村

○根府川路自三島至輕井澤三里拾五町三拾八歩（増）三里廿一町三十七間○歴中島、大場、大土肥、平井、此ヨリ山路ナリ、自輕井澤至熱海貳里八町紘巻山、洋鵞崎、嶇嶺頭ニ一草堂アルノミ人家ナシ（増）三里七町二十間○近者開ク所新道里程ナリ

自熱海至門川相州足柄下郡界貳里拾七町（増）二里二町六間○歴伊豆山

通計八里四町三拾八歩（増）八里三十一町三間

○東浦路自熱海此迫ハ根府川路ト同シ至網代貳里壱町三拾八歩（増）二里廿七町五十間○歴上下多賀

自網代至伊東、和田三里六町五歩（増）二里廿八町四十九間○琵琶轉ノ峻アリ歴宇佐美、湯川松原、竹内

自和田至赤澤四里拾三

歩増三里三十二町五十九間○歴吉田、八幡野、自赤澤至稲取四里七町三歩増三里廿七町十間○歴大川、奈良本、片瀬、白田、自稲取至白濱四里九町貳拾四歩増四里三十町廿六間○歴見高、濱、谷津、縄地、自白濱至下田壹里貳拾三町三拾歩増一里三町四十三間○歴柹嵜、通計自熱海至此拾九里拾壹町五拾三歩増十九里二十五町五十八間

○西浦路、自三島至三津三里貳拾八町拾五歩増四里一町○歴中島、大場、間宮、新宿、原木、南北江間、墹上、長岡、長瀬、此ハ是順路ナリサレドモ重寺村ハ駿州境界西浦ノ始ナレバ此ヘ由ラントスルニハ上ノ如ク江間マデ来リ此ヨリ駿州口野村ヘ由リ重寺ニ至リ此ヨリ小海ヲ歴テ三津ニ至ル其間十二町増十町四十五間自三津至古宇壹里三拾貳町貳歩増一里三十二町三十間○歴長濱、重須、木負、久連、平澤、立保、自古宇至戸田貳里拾町増二里十一町二十間○コレ真城山ノ嶮路ヲ踰ルナリ若シ海濱ヲ行ケバ古宇ヨリ足保、久料、ヲ経テ江梨ヘ三十七町八歩増一里四町廿間○江梨ヨリ戸田ヘ井田ヲ経テ二里十八町五十一歩増二里十三町十九間○コノ道通計三里十九町五十九歩較遠シ増三里十七町三十九間自戸田至土肥壹里三拾五町拾八歩増三里二町廿九間○歴小土肥、自土肥至宇久須三里貳町三拾歩増二里三十四町三十六間自宇久須至松崎四里九町五拾三歩増三里三十二町廿九間○歴阿良里、田子、濱、江奈、不来坂尤モ嶮隘自松崎至子浦貳里貳拾貳町拾七歩増二里■■■■■■○道部、岩科、伊濱、等ノ山嶺ヲ踰ユ亦海濱路ハ歴道部、岩地、石部、雲見、伊濱至子浦四里二町二十七歩増四里六町四間自子浦至妻浦貳拾六町増二十三町三十二間○海路十五町通計貳拾里貳拾貳町拾五歩増二十■■■■■■■

○南浦路、自下田至手石貳里三拾三町貳拾歩増三里十町八間○

歴大賀茂、青市、又海濱路ハ歴吉佐美、田牛、湊村、鈴尾、西ノ谷嶺ノ坂路嶮ナリ二里廿九町三十五歩増三里三町五十六間自手石、至長鶴壱里貳拾七町四歩増一里廿町五十一間○歴下流、大瀬ヲ自長鶴、至妻浦三里拾壱町四拾歩増二里廿三町四十計八里四歩増七里十八町三十九間○歴入間、一色ヲ賀茂、加納、二条、蝶ガ野、一色ヲ歴テ妻浦ニ至ル三里十三町十八歩増三里四町八間○山徑甚ダチカシ又自下田至子浦通計六里拾町四拾六歩増六里七町五十六間○コレ手石迄ハ如前路上下賀茂、石井、岩殿、上下小野、ヲ歴テ子浦ニ至ルナリ増以上、下田町ヨリ子浦村ニ至ルマデヲ南組ト稱ス

○大見路、自大仁、此迄ハ下田路ニ同至白岩壱里三拾二町貳拾歩増一里三十町四十二間○歴牧、郷、柏窪、羊川、下白岩、自白岩、至德永壱里拾七町三拾五歩増一里廿町七間○歴関野、城、八幡、柳瀬、冷川通計七里拾三町貳拾九歩

増七里三十町二間、又八幡ヨリ柳瀬、原保、地蔵堂、ヲ経テ二六梅木、宮ノ上、姫ノ湯、貴僧坊、ヲ歴筏場村ニ達スル路アリ、

○北山路、自三島、至伊豆島田、中橋此レ三島ノ北方佐野村ノ属里壱里六町拾八歩、増一里■■■■■歴幸原、中橋、豆駿、州畏ナリ

○間道○浮橋越、凡ソ何越ト云ハ皆山路ニシテ升降ナリ自南條至浮橋、壱里貳拾八町四拾四歩増二里三町十五間○歴中村自浮橋至宇佐美、貳里拾三町三拾六歩増二里十町五十九間○歴下流、岐路アリ左ヘ○亀石嶺ヲ越ルナリ増二里二町三十七間○山伏行ゲバ下多賀ヘ壱里三拾町嶺ヲ越エ又此ヨリ北ノ方韮山多田等ヨリ多賀、熱海ヘ越エ奈古屋ヨリ多賀○田中越、ヘ越ル山徑アリ春夏ハ草シゲリ行キガタシ自田中、至宇佐美、四里拾壱町七歩、増四里九町十二間○歴下畑、田原野○横山越、自白岩、至宇佐美、三里餘増三里■■■■■○越水窪嶺○柏嶺越、

此嶺ハ河津三郎相撲ヲ為セシ處ナリ、自徳永、至鑓田、貳里壱町（増一里三十二町五十七間）

○片倉山越、自徳永、至湯川、貳里貳拾貳町、（増二里九町十七間）

○鹿路（ロクロバ）庭越、自徳永、至池村、貳里貳拾七町、（増二里廿三十六間）

○宇佐美澤越、自冷川、至宇佐美、貳里八町、（増二里十五町）

○以上三島及田方邊ヨリ箱根山ヲ越テ東浦ヘ往ク山路ナリ但柏嶺鹿路庭嶺ハ箱根、天城、ノ二山ニ至テ山脈盡シトシテ相接續スル處故ニ山稍低シ、（増柏峠隧道明治十五年ノ開鑿ニ係ル延長三十八間（高一丈二尺巾一丈五尺）但百九十坪ト、）

○神戸（ガウト）越、自熊坂、至重須、壱里拾町、（増一里）

○大澤越、自大澤、至重須、壱里八町、（増一里十二町四十間又修善寺ヘ二里十一町四十九間）

○修善寺越、自修善寺、至戸田、四里餘（増四里八町）

○以上ミナ隘路絶ヘ岩風雨ニ行ク可ラズ

○柿木越、自上柿木、至土肥、三里（増三里）

■■■至戸田、四里半（増三里十四町）

○船原越、自船原、至土肥、三里半（増三里二十町）

○吉奈越、自吉奈、至土肥、三里半（増三里三十町）

○至宇久須、五里（増四里）

■■■

○猫兒（ネッコ）越、自吉奈、至大澤里、宮ヶ原、三里餘（増五里）

■■■自宮原、至仁科濱村、貳里貳拾七町貳拾九歩（増二里十一町廿六間）

○以上三島及田方邊ヨリ西浦ヘ越ルナリ修善寺越ハ達摩、天城、二山ノ麓、相連ル處故ニ不甚高峻ナ唯猫兒越ハ西南ノ方ヘ斜ニ天城山ヲ越ユ故ニ最遠クシテ嶮峻ナリ、

○蜀漆（コグサギ）越、自湯島、至筏場、壱里拾九町（増一里廿六町廿三間）

○湯島、屬里長野ヲ歴（増近者道路修繕ノ功成リ且眺望ニ富ムヲ以テ春夏ノ交跋渉スルモノ多シト云フ）

○地獄澤越、自矢熊、至筏場、壱里七町、（増一里）

■■■

○以上狩野ヨリ大見ヘ越ス（増大幡越、自中原戸至冷川、三十二町二十二間大幡野ハ天城山東北二亘ル原野ニテ十六村共有秣場ナリ、）

○脊通路、自伊豆山、至箱根驛三里、(増)三里■■○土澤、日金ノ地藏堂ヲ過キ丸山ヲ經異本蘇我物語云兵衛佐殿自伊豆通箱根道當時名峯通西國方道者自伊豆參宮根道為昔伊豆雄山盛ナリシ時コノ往来多カリシト云以上天城山北間道ノ大畧ナリ近世ハ此外ニモ捷徑ノ蹊多シ

○蛇石越、自下田、至蛇石、六里五町四拾八歩(増)五里十四町○歴大加茂、青市、手石、上下賀茂、石井、岩殿、上下小野、市瀬、自蛇石、至松崎、壱里貳拾貳町四拾七歩、(増)三里二町三十八間○山路ヲスギ歴岩科、道部、通計七里貳拾八町三拾五歩(増)八里十六町三十八間

○自伊濱、至蛇石、壱里拾町(増)一里四十間○○山路人家ナシ○甑端越、自下田、至加増野、貳里貳拾九町貳拾七歩、(増)二里三十四町四十間○歴本郷、立野、蓮臺寺、自加増野、至小杉原、壱里五町、(増)一里五町廿四間○此間甑端山路ヲ自小杉原、至松崎、貳里壱町貳拾九歩(増)二里八町四十二間○歴明伏、南郷、伏倉、宮内、通計五里三拾五町五拾六歩(増)六里十一町又自加増野、經岩科、テ松崎路アリ通計自下田五里壱町四拾四歩(増)五里■■■■○檜原越、自大澤里、至梨本、四里拾九町■■(増)四里■■■○歴門野、池代、山路過大鍋、○自松崎、至池代、貳里拾壱町貳拾貳歩(増)二里十五町十九間○歴宮内、伏倉、南郷、建久寺、吉田、舟田、峯輪、大澤、自池代、至大鍋、貳里■■■■(増)二里■■■○此間草徑嶮隘自大鍋、至湯野、貳拾町拾貳歩■■(増)二十町■■■○歴梨本、自湯野、至河津濱村、壱里貳拾貳町貳拾歩(増)一里十六町三十五間○歴下佐野、矢野、筏場、澤田、田中、篠原、通計自松崎至此六里拾八町五拾四歩(増)六里十二町■■■■○自池代、至北湯野、滑川、貳里半■■■■(増)二里■■■○組嶺越、自

峯村、至逆川、三拾四町四歩（増一里二町五十四間）○大幡越、自下佐野至白田、貳里（増二里■■■■）又至稲取、貳里餘（増二里■■■■）○上佐野ヲ経○自落合、至白濱、壱里拾町餘（増一里四町三十七間）又至縄地、壱里九町（増一里二町五十八間）○共ニ蟠山ヲ越○自縄地、至茅原野、坂戸、壱里（増一里■■■■）○自白濱、至中村、壱里拾貳町（増一里十一間）○自加納、至入間、壱里三拾町四拾六歩（増一里十四町廿六間）○歴二條ヲ越ユ（増一里十二町廿九間）○佛嶺ヲ越ユ（増一里廿町四十間）貳拾貳町（増一里十二町廿九間）又自加納、至長津呂、一里廿町四十間

○航路（フナジ）自下田、安畏（ミナト）至江都、五拾里（増五十■■■■）至相州浦賀、三拾貳里（増三十■■■■）至大坂、九拾四里（増九十■■■■）至志州鳥羽、七拾五里（増七十■■■■）至遠州御前埼、貳拾四里（増二十■■■■）至駿州清水、拾六里（増十■■■■）至房州洲埼、三拾里（増三十■■■■）至本州戸田、拾六里（増十■■■■）至網代、拾八里（増十■■■■）至大島、拾三里（増十■■■■）至新島、拾三里（増十■■■■）至神集（カウヅ）島、拾八里（増十■■■■）至利島、拾里餘（増十■■■■）至三宅（ミヤケ）島、貳拾六里（増二十■■■■）至三倉（ソウ）島、三拾里（増三十■■■■）至八丈（ハチジヤウ）島、六拾四里（増六十■■■■）至青（ヲガ）島、八拾貳里（増八十■■■■）至小笠原北島、壱百七拾四里（増一百■■■■）（此島ハ里數大積、十リ）

○郡郷

○我邦先王ノ制天下ヲ分ツニ五畿七道ノ大ワリ有リ道ノ下ニ國アリ國ノ下ニ郡アリ郡ノ下ニ郷アリ郷ノ下ニ村アリ日本紀略ニ備中國、都宇郡、撫河郷、箕嶌村ト書

ムルガ如キ是古昔公文ノ正法ナリ鎌倉ノ時先王ノ制度大ニ壞レ郡ト郷トヲ廢シテ用サズ因テ村ヲ改メテ郷ト云例バ桑原、山木、ハ村名ナルヲ伊豆國桑原郷又山木郷(増共ニ東鑑所記)ト云ガ如キ是ナリ又東鑑ヲ考ルニ公領ノ外ハ神社、佛寺、諸士、ノ采地、或ハ五村十村或ハ二三十村テモ凡テ某莊又莊園ナド云シト見ユ莊ト云ハ是ヨリ以前ニ有リタレドモ此頃ヨリ專用ウ(増莊園ノ起)シ事ハ貢租ノ條ニ記セリ而世郡郷ノ名行ハル、事久シキヲ以テ人間或ハ廢スル支能ハズ且以テ村為郷ト云ヘ因テ郷ヲ換ルニ莊ヲ以テス此レ莊ハ古ノ郷ニ準ズト思ヘル故ナリ就如バ本州ニ井田郷アリ之ヲ井田莊ト云狩野郷ハ狩野莊ト云又仁科莊鶴喰莊ナドハ下ニテ私ニ立タル莊名ナリ、此等ノ事獨本州ノミナラズ諸州率ネ然リ又關郷名ノ今ニ存スルアリ河内國茨田郡ニ橋波莊五個莊等大窪郷ト洛伯ニ用ウルカ如キ是ナリ而シテ諸州トモ今郷莊存スル少ナシ猶未條ニ記セルヲモ參照スベシ

○延喜式(増民部上)曰伊豆國下管郡三、曰田方、曰那賀、曰賀茂、(増和名鈔曰伊豆國管三、田方、多加太那賀奈加賀茂)○領郷二十一ヲ(増和名鈔所載二百一十九ヲ)統村三百一ヲ(増二百九十■○七島ノ村里入ル)

○田方郡　郷十三　村六十九(増町一村六十)此郡古昔最大ニシテ南ハ天城山脊ニ至リ東ハ相州界ヨリ海ニ至リ西北ハ駿相ノ界ヨリ海ニ至ル旦國府モ此郡ニ在リ府南

數里、間壤地坦平ニシテ水田アリ此郡名ナ田方ト稱ズル所以ナリ、(増)蕭天城山北一面田方郡ニシテ東ハ赤澤村ノ限リ西ハ江梨村ニ至リ北ハ相模、駿河ニ跨シテ皆本郡ノ地ナリ而シテ後西北部ハ君澤郡ト南ハ賀茂郡ニ侵サレテ其中央部三分ノ一ヲ遺ナリ東南部ハ賀茂郡ニ至ル乃チ現今ノ區域幅員東南ハ山脈及川流ヲ以テ賀茂郡ニ跨シ西北亦山脈及川流ヲ以テ君澤、那賀、二郡ニ跨ス北緯三十四度五十分ヨリ三十五度十一分ニ至ル西經〇度四十一分三十秒ヨリ同五十六分ニ至ル東西三里南北十里

〇郷〇新居、覺明記(増)箱根山縁起ニ新居、郷桑原村ト是村ノ東北ハ皆山巒ニシテ昔ハ更ニ人居ナシ西方ハ佐婆、郷ナリサレバ此ヨリ南方八牧、金谷、邊ノ若干村是郷ナル支可知ナリ(増)新居郷名ヲ記セルモノ箱根山縁起ノ外未タ之ヲ見ズナホ確證ヲ得テ定ムベシ

〇直見、即今ノ大見ナリ多々見ト訓ズ多々見ハ此郷ノ舊名既ニ多々見ヲ修シテ直見トスト雖郷人私ニハ仍多々見ノ字ヲ用ヰタルガ多ニオホノ訓アル故遂ニ大字ニ書カヘシナルベシ、今大見組ト云此郷室町ノ頃ノ諸神祠上梁文ニハ葛見、莊トス是ハ此頃莊名ヲ失ヒ隣莊ノ名ヲ借用レモ有ル故川津、莊仁科、莊ナドハ特ニ廣ク稱シタリ此郷亦然ルベシ、(増)竹村茂雄郡郷考同之國郡沿革考曰後阿多美郷即チ熟海ノ地ト、阿多美郷ノ稱東鑑其他ノモノニモ見エタリ

〇佐婆、已ニ廢シテ大塲村ヲ澤、郷ト云タリ、(増)祝祠簿マ年豊臣氏ノ文書澤之郷トアリ〇又上澤北澤ノ二村及谷田村ニ佐婆、地ノ跡アリ郷域ノ大概知ル可シ、

〇茨城(増)今原木村アリ、延喜式荒木、神社、伊豆、國神名帳、あらきの明神有リ〇東鑑ニ蘇木ニ作ル此頃既ニ郷廢

シテ村名トナレリ原木バラキト訓ズ即茨城ナリ（増）竹村茂雄考曰北條、原木、新宿肥田邊ヲ云ナル可シト按ズルニアラキ、バラキ、通ヒ稱セレナラム倭名鈔、越後國頸城郡原木（阿良幾）アリ参考スベシ

○依馬、今、江間村アリ此邊ナリ亦君澤郡トナル江馬ニ（増）東鑑作ル豆塚神社、文明四年、金鼓、銘、税祠簿、北條氏文書同役高帳等同之竹村茂雄考曰江間、日守、邊ヲ云フナル可シト

○八邦、此郷亦考フ可キ无シ、和名鈔、寫誤カ不レ然バ按下ニ必訓アルベキナリ二田方郡ノ郷域上ニ擧ルガ如ク大略推知ル可シ唯梅名、安久、御園、ヨリ今中、郷ト稱スル處迄十三村何ノ郷タルヤ知ル可ラズ豈八邦ハ乃此邊ナルカ絶テ證左ナシ（増）國郡沿革考曰八牧、原誤作八邦今山木村存ト竹村茂雄亦同攷ナレド確証ナシ、ナホ能ク考ヘテ定ムベシ

○狩野（増）日本紀、應神天皇、五年冬十月、科伊豆國令造船長十丈、船既成之、試浮于海便輕泛疾行如馳故名其船曰枯野、○枯野、船材出之所故ニ名トス此郷ニ式内輕野神社（増）神名帳狩野明神）有リカルノカレノカリノ皆轉語ナリ今狩野、莊又狩野組ト云フ、（増）東鑑狩野、莊マタ狩野山ノ稱アリ國郡沿革考曰加殿以南ノ地ト竹村茂雄、考曰瓜生野邊ヨリ天城山迄ヲ云フト、以上ノ説ニ因リテ其地理ノ大概ヲ知ルベシ、

○天野、天野村存ス今君澤郡ト為ル、（増）竹村茂雄考曰天瀬、邊ヲ云ルナル可シト鎌倉武鑑天野遠景傳曰父景光伊豆天野ニ住レテ氏トス系圖藤原景光ノ下ニ天野二郎ト記ス

○吉妾（増）今君澤郡木負村アリ、或ハ木正ニ作ル皆吉妾ノ字音ヨリ轉訛セル也、吉妾ハヨシヅマト訓テ延喜式ニ所載鮑玉白珠比咩命

神社、木負村ヨリ起ル稱ナル可シ、神祠ノ部ニ詳ス木負ノ字ニ就テ云ル説
鎮座
ハ元當ト云フ可ラズ○元コノ邊ヲ木負郷ト云山中ヨリ木ヲ伐出シ負テ販クヲ業トセシヨリノ名ナリセフハセオフノ約言ナリ續日本紀曰、和銅六年五月、幾内七道、諸國郡郷ノ名著好字延喜式曰、諸國部内ノ郡里等ノ名並用二字、必取嘉名コレ木負ノ字郡俚ナル故換ルニ吉妾ヲ以テシ久須美、多々見、三字ナル故換ルニ久寝、直見、ヲ以テス延喜式、和名鈔、所記地名コノ類例少カラズ爾雅ドモ而モ此ニ由テ本義ヲ失フ妄多シ此郷ハ木負村ヨリ江梨迄ト見ユ三津村氣多神社、旧記并ニ此邊諸神祠ノ棟札ニ據レバ江梨ヨリシテ今内浦ト稱スル處皆那賀郡ナリ然レドモ吉妾郷和名鈔田方郡ニ載ス且田子ヨリ内浦マデ十二里余井田一郷タルベカラズ村人質野誤称セシナラム、増竹村茂雄考曰吉妾ヨレヅマナレバヅマヲダト約テヨシダトヨビテ吉田村邊大仁、三福、田中ナドヲ云ルナル可シト、前説ト參考シテ甚當否ヲ知ルベシ

○有辨、今考ル所无シ或云三島ノ北方舊ハ伊豆ノ地界今ヨリヤヽ廣カリシナリ當必郷名アル可シト因テ思フニ其地高シテ國府ノ上ニ在リ有辨ハ上ノ義ナリ今ハ道上ト云往来道ノ上ニアル故ニシテ所指頗ル廣シ有辨郷名存スルニ因テ後人道字ヲ加ルニヤ、増國郡沿革考曰、有辨、蓋大見庄ノ地ト竹村茂雄考曰有辨ヲ名チソヘテ梅名ト云ルニテ梅名邊ヨリ青木、松本、御園、邊云ルナル可シト

○久寝、今葛見、荘ト云又岡村賀茂郡ニ式内久豆彌神社ヲ載ス、増東鑑蘇我物語、菊美庄、久津庄、伊東系圖久須美云々舊記云久須美ハ國隅ノ義ナリ此郷、國ノ東北隅ニアレバナリト、寝字シンノ音ヲ假リテスミト訓ス上總ニ夷澤郡アリ澤音ジン本亦作甚ジンシミシン皆通音ナル故夷澤トヨムレバ久寝、クスミナル事明カナリ或云三島ノ北今駿河ノ地ニ入テ久根村存ス即久寝ナリト寝讀デスミト云ヲ

知ラザルナリ、(増)古ク訓ヲカナニ用ヰタル例ナケレバ寝ノスミナル支論フマデモアラズ

○鏡作、小河、ノ二郷田方郡、中ニ於テ之ニ充ベキ所ナシ或云駿州駿東郡口野ヨリ多比、江ノ浦、獅子濱、真籠志下、我入道、香貫、ニ至ル八村又日守ヨリ大平、徳倉、的場、畠中、戸田、久米田、西玉川、湯川、堂庭、柿田、長澤、八幡、伏見、等ノ二十餘村、コノ内古村ハ三分ノ一トミユ原伊豆ノ地ナリト如此ナレバ狩野、黄瀬、ノ二水北ハ官道ヲ以テ州界トス地形宜シク疆域尤分明ナリ因テ上ノ諸村ヲ咨詢スルニ絶テ石記遺文ノ憑據トスベキナシ唯田方郡、式内、玉作、楊原、大朝、ノ三神社之ヲ香貫村ニ得タリ伊豆山ヨリ出ル伊豆山伏ト云

者先達一人山伏三人蘭脱小角ノ蹤ヲ追ヒ毎歳季冬十五日ヨリ正月廿八日迄伊豆海濱ノ古祠舊刹ニ納符スル支于今千三百餘年其詣スル處所ヲ録シテ伊豆峯記ト云凡ソ是記ニ所載ノ祠寺ハ伊豆納符ノ四字ヲ附山伏已ニ香貫ニスコレ其古跡タルヲ見ハスガ為ナリ上ノ三神祠ニ納符ス納符此村ニ畢ルヲ以テ方ニ至リ始メテ帯ヲ石上ニ解キ行装ヲ改メ衣ヲ披テ冠ヲ捫ス是其法始メテ出ルヨリ四十餘日未タ嘗テ帯ヲ解ザルヲ以テナリ故ニ其石ヲ號シテ曰解帯石トサレバ此迄伊豆ノ境タル事知ル可シ京本平治物語云男子ハ駿河國カツラト云所ニ在リケルヲ母方ノ舅木工頭トモタベト云者

捕ヘテ平家ヘ獻スト是カツラハ地名ニシテ即香貫ナリ此頃ハ駿河ニ屬セシ事亦可知今行ノ本ハ駿河國家ヘ獻ズト香貫ヲ人名トスルハ謬マレリ因意ニカツラハリヲ通音ニシテ鏡作ノ省語ナラム歟(增)神祠部揚原神社ノ條ニ云今大原ノ地名アリ今訛シテハ重原ト云祠中ノ古簿ニ豆州田賀方郡揚原明神并ニ神名ヲ記スヌ大朝明神同じ祠官所傳誦モ亦是ノ如シ三島驛揚原ニ亦揚原神社アリテ稱第三宮ト是香貫村邊駿州ニ隷セシ故此ニ遷祀ルトト見ユト然ルニ駿河志料香貫村條云香貫明神云々一説ニ當社ヲ伊豆國田方郡式社揚原神社ト云ハ非ナリカノ社ハ三島驛ニ揚原ノ地名ニ訛ニ揚原神社ノ古迹存シタレバ其地ニ鎮座アリシトアルハ反對説ナリ附記シテ後攷ニ備フ猶疆域ノ條參觀スベシ

○小河豆駿畏小河アリ今ハ二州ニ畏タルヲ以テ畏河ト名ク古ハ小河ト云シト思ハル此河西上ニ擧ル諸村ノ内的場ヨリ堂庭ニ至ルノ七村ヲ泉郷ト云今ハ玉川ヲ除キ六村ナリ舟田川ノ源泉此ニ沸湧スルヲ以テ名ク(增)東鑑曰元暦二年七月廿六日丁未前律師忠快為流人一昨日到着伊豆國小河郷亦田方郡式内神社小河泉水神社アリ即知ル此邊必小河郷ナラム而小河泉水神社未審但湯川最古村ニシテ其土神ハ八幡宮ニ熊野ヲ配ス傳誦シテ云泉郷ノ總鎮守神ナリトサレバ是神ヲ以テ之ニ當ベキカ所得大概外差有マジキ歟(增)本書神祠條曰小河泉水神社今熊野權現ト稱ス亦在駿東郡湯川村ト熊野八幡ヲ配祀セシガ八幡ハ同郡八幡村ヘ遷座アリシト云伊豆山伏歸路此祠ニ納符ス)○蓋伊豆ハ原駿河ヨリ分レシ州ナレバ此二郷(鏡作小河)ノ地駿河タ

ル事勿論ナリ分置ノ時伊豆ニ屬シ延喜ノ後復駿河ニ屬シ北條氏割取シテ伊豆トシ駿河亞相駿城ニ在時施行厨料トシテ復駿河トナル彼是附屬不定地ナレバ其考難ヤモ空ナリ神祠部、疆域、部、併セ看ル可シ

○君澤郡

郷名載田方郡

村六拾六 ㊐町一村六十一 ○此郡ハ田方郡ヲ割テ置所ナリ但六村ハ那賀郡ヨリ入ル

小濵池ヨリ流出ル水ヲ廣瀬ト云下流數派トナル其一ノ小溝ヲ君澤ト云是郡名ノ起ナリ或云鑓倉ノ項郡宅郷ト云アリ古文書ニ見ユ ㊐三島大社貞和觀應延文等文書郡宅郷ヲ載ス此ヨリ起レル郡名ナル可シ此ニ始ルト本君澤莊ト云フ數村ノ莊號ナルガ次第ニ廣リ元禄ノ頃ニ至リ五拾餘村トナル ㊐天正十八年諸村検地帳君澤郡ノ稱アルヲ思フニ當時既ニ郡名トナリシ事著シ然レドモ未一定ナラス同年度御薗村検地帳ニ田方郡久料村帳高田郡ト記シ、マタ同年中島村(神益)同十九年中村(南文禄三年塚本村丹那村等ノ帳ニ君澤郡ト記シ其他一村ニシテ一ハ田方一ハ君澤ノ記載アルナドヲ見テ其錯雜ナリシヲ知ル可シ)同十四年御代官小長谷氏ノ時川原谷、冢原、北澤、大塲、市野山、山中、谷田、中村、多呂、三ツ谷、竹倉、中島、篠原ノ拾三村君澤郡タル可キノ令アリテ郡始テ定マル ㊐此時令アリテ今ノ如ク定メラレシナリ國ノ時既ニ郡トナル故ニ正保圖之ヲ載ス寛文中復古ノ時之ヲ停ス元禄十四年ニ至リ再ビ此郡名ヲ置シ十ヲ而シテ正保圖既ニ六十八村アリ元禄ノ時六十九村アリ大抵今ノ地ニ同ジトアル其停廢再置ヲ云ルハ臆測ノ説ナリ現今本郡ノ區域幅員東山脈川流ヲ以テ田方郡ニ畏シ北箱根山脈及川流ヲ以テ相模駿河ニ畏シ南山脈ヲ以テ那賀郡ニ畏シ西面ハ海ニ枕ム北緯三十四度四十二分三十秒ヨリ同三十五度十二分二至ル西經○度三十四分ヨリ同一度三十秒二至ル東七西二里南北七里 ㊐元禄、天保、二圖共ニ加茂ニ作ル

○賀茂郡

郷五 村百貳拾七 ㊐町一村

百十八島一〇外ニ海嶌二十三東ハ赤澤邊ヨリ南入間ニ至ル沿海ノ諸村北ハ天城山背界ナルガ中古以來田方、那賀、ノ二郡ヨリ次第ニ入リ山中聚落モ漸々增益シテ今甚タ大郡タリ海島ハ固ヨリ總テ本郡ニ屬ス（增）國郡沿革考曰賀茂郡後世北境ハ田方郡東邊三鄉ノ地ヲ併セ西境ハ那賀郡一鄉ノ地ヲ合セ其疆域殆ト全國ノ半ニ及ブト現今ノ區域幅員北川流ヲ以テ相模ニ界シ北ヨリ西ニ走リ概ネ山脈ヲ以テ田方郡ニ界シ東南及ヒ西ニ回リテ海ニ面シ西北川流ヲ以テ那賀郡ニ界ス北緯三十四度五十分ヨリ同三十度十一分三十秒ヨリ同五十五度十一分ニ至ル東西七里六分ニ至ル西經〇度四十一分三十秒ヨリ同五十五度十一分ニ至ル南北二十五里■■■

〇鄉〇賀茂（カモ）今上下賀茂村存ス（增）延喜式加毛神社神名帳賀茂明神北條氏文書賀茂鄉見ユ

蛇石ニ至ル迫拾六村大約此鄉ナリ考（增）竹村茂雄曰長鶴ヨリ此呼ノ川邊マテヲ總テ云ルナルベシト今按ルニ長鶴邊ハ月間賀茂何レニ屬シナラム確ニ考フベカラズ

〇月間（增）延喜式竹麻神社三坐神名帳月間明神有リ〇湊村ニ月間ノ地名存ス此村ヨリ入間マテ此鄉ナルカ（增）按ニ入間邊ヲ賀茂鄉トシ大賀茂、吉佐美、田牛、ハ月間鄉トシテ允當ナラムカ尚ヨク考ヘテ定メマホシ

〇川津（カハツ）谷津及濱村ノ間ニ川津川流レテ小舟コヽニ著岸ス鄉名此ニ起ルナリ（增）河蝦（カハヱビ）考云此ハ河蝦ノ多ク住ヨリ起レル鄉名ナルベシト八幡野ノ南赤澤邊ヨリ白濱マデ此鄉ナリ今川津組ト云フ（增）竹村茂雄モ白濱邊ヨリ大川邊マデヲ云ルナル可シト云リサレト白濱ハ其區域ヲ異ニシテ此鄉内ニハ非ス此ハ既ク伴信友藤井昌幸等モ辨ヘ置シモノ有リ就テ見ルベシ皆實地ニ適ヒテ從フベキ說ナリ

〇三島（增）海島ノ總稱ナリ國史ニ島日本紀日本紀續三島日本紀續

其他トアル即是ナリ三島ノ三ハ御ト同ク尊稱ナラムニモトアル即是ナリ竹村茂雄云ハ丈、小島、青島、ノ名ナルヲ可シト○此郷賀茂郡ニ在ズシテ懸ニ隔ル田方郡(今君澤郡)ノ中間ニ在リ是三島明神賀茂郡ヨリ田方ヘ遷座アリシ故ナリト云フ(増)是即今ノ三島宿ヲ以テ三島郷ト思フ違ヘタルヨリ如此云ハニテ甚シキ誤謬ナリ

○大社今稲生澤ト稱ズル處大略此郷ナリ(紀)兼和七年九月ノ條ニ三島大社トアル如ク三島大神ノ鎮座ヨリ起レル稱ニテ白濱ヨリ稲生澤マデヲ云シナルベシ○稲生澤旧記ニ作稲澤應永中、文書作稲梓然レバ郷名廢スル事久シト(増)三島大社應永八年同九年同廿二年、文書ミナ稲梓郷ト見エタリ或ハ稲生澤ノ轉訛セル、ニ稲梓ノ字ヲ當タルモ知ルベカラズ

(増)那賀郡郷三村拾七十(増)村此郷田方、賀茂、二郡ノ中ニ在リ故ニ名トス室町ノ末ヨリ此郡漸々ニ蹙リ北方井田郷ハ君澤郡ニ入リ南方石火郷ハ賀茂郡トナル今ノ那賀郡ハ即古ノ那賀郷陞リテ郡ト為リタルナリ現(増)今那賀郡ノ區域幅員東南山脈川流ヲ以テ賀茂郡ニ界シ東北亦山脈ヲ以テ田方君澤二郡ニ界シ西ハ海ニ面スル北緯三十四度四十七分ヨリ同三十四度五十三分ニ至ル西經○度五十二分ヨリ同一度ニ至ル南北四里十二町東西二里三十町以上四郡幅員二十一年地理局取調書ニ據ル

○郷○井田(増)延喜式井田神社神名帳あさの明神○井田村ヨリ田子ニ至ル九村井田郷ナリ此郷、内小下田ニ至ル六村君澤郡ニ入リ宇久須、阿良里、田子、ノ三村那賀郡ニ隷ス是ヲ以テ今ハ井田、郷二郡ニ亘ル(増)竹村茂雄考馬込村ヨリ井田マデト云レト其因據アルヲ知ラス恐ラクハ臆測ナルベシ

○那賀(ナカ)(増)延喜式仲、社、神名帳、仲、明神アリ文治、永正、天文、等ノ文書那賀

郷ト○此郷亦井田、石火、二郷ノ中ニ在リ故ニ名トス往昔ハ松﨑、宮内、伏倉、南郷、明伏、小杉原、ノ六村モ此郷、内ナリ伊奈上社ノ流記ニミユ今ハ賀茂郡トナル（増）此ニ伊奈上社トアルハ仲神社ノ事ナリ神祠ノ條ニ詳悉スルヲ見テソノ旧説ノ誤謬ナル支ヲ知リ辨フベシ

○石火（増）延喜式伊志夫神社神名帳いしひの明神アリ其他石火ト記セルモノ少カラス○岩科ヨリ妻良邊ニ至ル此郷ナリ廢シテ一村ノ名トナルモ已ニ久シナル石火明神ノ上梁元禄中此郷賀茂郡ト文ニ見ユ（増）竹村茂雄考岩地、石部、邊ヨリ石廊崎マデナ云ト云ルハ推當ノ説ニシテ實地ニ逢ハズト知ルヘシ○以上郡郷ノ興廢分畏考古ノ為ニスル多シ村里、部神祠、部ト併看ハ其ノ沿革知ル可シ

貞享中國中ヲ分テ十二組トス（増）十二組ハ三島組二十七宿村自三島至南條、谷田組二十村自伊豆佐野至奈古谷、田中組二十村自北江間至大仁、内浦組二十村自重寺至小下田、狩野組二十七村自堀切至湯島、大見組二十七村、自牧ノ郷至筏場、東浦、組五村、自赤澤至庄瀬、川津組十七村、自梨本至見高、稲生澤組十九村、自茅原野至白濱、加納組二十二村、自大賀茂至伊濱、松﨑組二十村、自雲見至江奈宇久須組八村、自宇久須至門野、組ニ入ザル村三十九村是郷荘亡スル多キヲ以テノ故カ、此組ハ甲斐ニテ筋（スジ）ト云上總ニテ群（ムレ）ト云類ニシテ皆古ノ郷ニ準ズ然レドモ一郡ノ内幾組ト分ケタルニ非ズ只モヨリニ因テ立タルナリ

○又私ニ稱セシ郡郷アリ（増）北條郡東鑑増鏡蘇我物語○室郡或作室野舟原、牧郷、邊（増）田代、加殿、其他諸村天正十八年検地帳宝郡ニ作ルモノ多シタカラ（實）ハタカタノ轉訛ニテ實郡ナラムモ知ルベカラズ○厚見郡戸田（増）山宮社上梁○楠木郡梨本、縄地、邊（増）梨本村水神社、慶長二年、文、逗刈楠木郡河津莊川井那村ト縄地村子安神社金鼓、銘桔木郡河津莊ト

○高島郡小海（増）久料村天正十八年検地帳豆州高田郡トアルナ思フニ高島ハ高田ノ誤謬トハモ知ルベカラズ（増）郷ハ牧郷東鑑近来マデ郷トノ稱シテ村字ヲ附セズ山木郷阿多美郷、東鑑此他多シ郡宅郷、稲梓郷、三島大社文書ナホ多シ土倉郷、佐野郷、箱根縁起田中郷、松笠郷、天正十八年御蘭郷、塚本郷、天正十八年検地帳等豊臣氏文書ノ類甚多シ荘ハ馬宮（ミヤ）荘、玉海狩野荘、東鑑又三島大社文書葛見（クズミ）荘、蘇我物語井田荘、藤原道家奥分記○仁科荘、（増）北條氏文書諸社上梁田中荘、田方郡（カリヅメ）驅籠荘、君澤郡大澤邊（増）子神社鶴食（ツルミ）荘、鶴食邊（増）田中邊ニミユ天文元年上梁ニコトク挙ルニ暇アラズ文書ノ如キ荘號ハ特ニ紛亂シテ盡ク類（増）保ハ本列更ニ所見ナシ今君澤郡ノ村名、立保、足保、賀茂郡ノ村名、原保、ノ稱アリ其何ノ故ニ號シヤヲ知ラズ郷荘ノ事ハナホ町村ノ條下ニ記セルヲモ参考シテ其沿革ヲ知ルベシ

○祥異

○白鳳十二年十月壬辰有鳴聲如鼓聞于東方有人曰伊豆島西北二面自然増益三百餘丈更為一島則如鼓音者神造是島響也（日本書紀）○大寶二年壬寅秋九月伊豆國飢遣使存恤（日本續紀下同之）○慶雲元年丙子夏伊豆國疫給醫藥療之○和銅二年己酉夏五月伊豆國連雨損苗○天平九年丁丑秋七月賑給伊豆國飢疫百姓（増）寶亀十一年庚申夏五月伊豆國疫飢賑給之○延歴二十年辛巳秋九月損田百姓免租徴庸（日本後紀纂下同）○天長九年壬子夏五月勅去年秋稼不稔諸國告飢今茲疫旱相仍人物夭折加以往々大

災畏成失所庚戌令卜筮八九畢於内裡伊豆國神為崇奏伊豆國言上三島神伊古奈比咩神二前預名神此神塞深谷推高岩平造之地二十町許作神宮二院池三處神異之事不可勝計（同上日本紀）（増）釋○兼和五年戊午秋七月至九月有物如灰從天而雨累日不止但雖似怪異無有害（續日本後記下同之）（増）上津島造島○兼和七年庚申秋九月伊豆國賀茂郡有造作島（ノ靈驗ヲ記セルモノニシテ其文頗ル長シ神社ノ部ニ詳ニス）○兼和八年辛酉秋七月詔曰如聞伊豆國地震為變里落不完人物損傷被厭没云云（増）除當年租調并閑倉賑救助修屋宇淪亡之徒務從葬埋○兼和十五年戊申春三月伊豆國飢遣使賑給○仁和三年丁未冬十一月二日伊豆國獻新生島圖一張見其畫中神明放火以潮所燈則如銀岳其頂有緑雲之氣細事在圖中不更記之（扶桑略記）○建久六年乙卯秋不熟　十一月十八日三島社第三殿之上烏頭自切而死伏　十二月十六日豆州願成就院每夜有怪異等所謂或以飛礫折破堂舍扉天井動揺如人足之歩（東鑑下同）○建仁元年辛酉秋伊豆北條仍飢十月平恭時循行會民焚去歳負租券賜人斗米并飯酒百姓感泣○建仁三年癸亥十一月仰伊豆國百姓破減當年乃貢負數為將軍御代始可被員休民戸善政也○寶治元年丁未正月伊豆國長十二町弘八町自十餘町行

去其跡如湖水云百練抄 ㊐弘長三年癸亥八月二十七日、大風鎮西乃貢運送船、六十一艘於伊豆海同時漂濤、東鑑 ㊐延元三年、戊寅閏七月、密詔義良許爲儲貳、遣還鎮以左近衛中將源顯信爲鎮守府將軍陸奥以輔之、東國皆受其節度八月發伊勢大港、九月至伊豆崎會大風暴起、船皆漂蕩、所御幾没有神異風忽變還至篠島、大日本史 ○日本國伊豆州海中有一座山、名曰大島、每年三百六十日日々火出自燃聲如雷、迸烟焰漲天近日以來又復灰飛數百里夜間掃除天明復積如霜雪、笠仙錄 ○興國六年春三島社火國大曆 ○應永二十八年四月四日、伊豆大島燒其響如雷海水如熱湯魚多死鎌倉日記 ㊐永正中八丈島燃出而如山志 海島 ㊐明應七年戊午■■仁科郷海溢レテ陸地ニ上ル事凡十八九町寺川中村分里ノ以下ノ田園皆水ニ浸ス佐波神社慶長十年乙巳上梁文 ㊐慶長元年丙申五月二日地震踰月臆來 ㊐同九年甲辰十二月十六日仁科郷海溢レテ陸地ヲ浸ス事凡十二三町佐波神社上梁文 ㊐同十年乙巳十二月十五日南海洪濤、八丈島一夜大山燃出、臆來下同 ㊐同十九年甲寅十月廿五日大震 ㊐寛永八年辛未八月洪水 ㊐慶安三年庚寅九月洪水川口氏記 ㊐同四年辛卯六月大水臆來 ㊐承應三年甲午青島山燃然レ氏不吹出地底ヲ西ヘ燃エ余程ノ所地上ニ煙立ノミ寛文十年池ヨリ細砂湧テ流出スルコト凡十年ニメ止ムト海島志

(増)寛文十一年辛亥八月廿七日洪水人馬多死謂之亥満水臆乗、川口氏記云田地ノ荒多シ今年ヨリ御取箇減ズト(増)延寶三年乙卯飢饉御救助アリ川口氏記、凶歳必携云天下大飢饉貧民ヲ賑スト(増)元禄元年戊辰七月廿二日大水川口氏記云之ヲ辰ノ満水ト云(増)五年壬申七月二日大風川口氏記(増)同六年癸酉四月大水臆乗下同(増)同七年甲戌四月二日大水(増)同十一年戊寅五月十七日仁科郷筑地山崩六十日霖雨佐波神社享保二年上梁俄震動山頭一時ニ崩レ磐石空中ニ飛散シ田文伊豆名迹志云築地山地忽山ヲ生シ中村寺川ミナ水中ニ浸スト(増)同十二年己卯八月十六日大風雨破損多シ川口氏記太宰純經済録云元禄十二年己卯八月十五夜大風ト(増)同十六年癸未十一月廿二日大島大震海立富池缺壞與海連海島志(増)同日地震伊東、川奈、宇佐美、諸村海嘯和田村民居百六十餘田畠蕩盡シテ海原トナル臆乗、川口氏記、經濟録云十一月廿二日夜関東大地震東國皆殃災ニ罹ルト(増)寶永元年甲申十一月廿三日大地震海水溢ル下田大ニ荒ル佐波神社上梁文(増)同四年丁亥十一月四日五日地震下田海溢又自廿四日富士山自然雨砂晝昏震十餘日臆乗、川口氏記、續談海云十一月駿河富士山燃甲州豆州武州相州砂降ト(増)同五年戊子小島海立海島志(増)正徳元年辛卯三宅島噴火樹崇溪ヨリ火發リ燃ルコト三年ト海島志(増)同四年甲午八月八日大風雨臆乗下同(増)享保四年己亥九月七日大風倒家拔樹(増)同七年壬寅五月大水(増)同十八年癸丑去歳違作

今年飢饉川口氏記、凶歳必携十七年蟲十八年蝗ト記ス　(増)寛延元年戊辰六月四日風雨洪水川口氏記、(増)寶暦元年辛未六月廿七日大雨洪水山ヲ崩シ人畜ヲ殺世云之未荒臆乗、川口氏記、豆州洪水因縁記ト云フ書ニ西浦沿海諸村尤甚シカリシ由ヲ記セリ　(増)同七年丁丑四月晦日ヨリ五月七日マデ霖雨洪水堤防ヲ破リ田地ヲ荒ス川口氏記、凶歳必携云中國関東臆乗、確氷氏記　(増)同九年己卯七月十七日洪水人多ク死ス東洪水ト　(増)同十三年癸未三宅島噴火七月九日ヨリ明和六年マデ七年ノ間火勢熾ニ燃テ其迹ヤケ砂原トナリタル所何百町歩トモ量難シト海島志　(増)安永元年壬辰八月三日大風折樹發家乗臆　(増)同六年丁酉大島三原山燃至今積灰四五尺凡ソ十六年ト海島志　(増)同九年庚子秋青島大震大池ノ田リ岩崩壊五十余所ノ穴ヲ生ス火氣上リ山燃トナリ其烟咽ビテ咳嗽不已草木モ凋落シテ山野青物ナク粮ツキ困苦ニ堪スモ春ヨリ山燃池ノ西崖ニ聚リ煙濃ク硫黄ノ氣薫シテ近クベカラズ火熾ナル時ハ島人八丈エ逃来シガ翌年ヨリ稍々還帰セリト海島志　(増)天明二年壬寅七月十四日地震十五日ヨリ十九日マテ大雨洪水八月廿一日暴風破損多シ、川口氏記、西遊記續編云天明二年寅ノ秋ハ四國九州ノ境飢饉シテ人民ノ難澁云バカリナシト　(増)同三年癸卯七月十日地震臆乗、川口氏記云今年霖雨春ヨリ秋ニ至ル六月中洪水七月七日八日震動信列淺間山焼出シ上州武州マデ大ニ荒ル前代未聞ノ不作ナリト逸書云天明三年東北諸州飢饉奥州尤甚シト　(増)同四年甲辰飢饉春ヨリ夏ニ至ル関東諸國餓死ノ者夥シ臆乗、川口氏記、凶歳必携云去年ヨリ本年ニ至ル関東飢饉ト、　(増)同六年丙午七月洪水九月大水凶作、川口氏記、山本氏記、確氷氏記、云古老ノ洪水申年ノ飢饉トテ

之ヲ語ルモノ全身粟粒ヲ生ズ蓋午年ハ天明四年、申年ハ天保七年ナルベシト

(増)寛政三年辛亥四月洪水八月大風洪水亥ノ満水ニ増ルト云フ川口氏記、大川氏記、凶歳必携云八月大風洪水ト

(増)同十一年己未四月十二日大雨洪水川口氏記下同

(増)享保三年癸亥麻疹流行死亡多シ

(増)文化十二年乙亥八月大雨洪水大川氏記、凶歳必携云畿内大水ト

(増)文政八年乙酉夏中冷氣大違作大川氏記、川口氏記、云狩野、大見、山附村々皆無ノ所多シト

(増)同十一年戊子夏中冷氣洪水田畑蝗害アリ大川氏記、川口氏記、凶歳必携云東海道大水ト

(増)天保四年癸巳霖雨飢饉大川氏記、凶歳必携云八月大風五月ヨリ八月ニ至ル晴天七八日ト

(増)同七年丙申飢饉、大川氏記、凶歳必携云七月十八日、八月一日大風雨天下大ニ飢ヲ明年モ亦飢ヲ月ヨリ八月マデ冷氣ニテ雨天多ク年大ニ飢ユト

(増)同九年戊戌飢饉大川氏記、常陸帯、云天保癸巳、丙申、戊戌ト打續キ五穀實ラズ云々ト

(増)安政元年甲寅十一月四日地大震矢田部氏記云三島神社本殿拝殿及諸建物皆倒ル市在人家ノナミタク潰ルト海嘯沿海諸村皆殃災ニ罹ル和漢年契云六月幾内地大震十一月又大震海溢死者多云云至明年動未全已ト凶歳必携云十一月四日五日大地震大海嘯全國此難ヲ免レタルハ僅ニ七八國ニ過スト近代月表云諸國大震海溢伊豆尤甚シ下田ニ碇泊セル魯船之ガ為ニ壊ルト確氷氏記云十一月四日大地震東北ニ當リテ震動止マズ暫時ニシテ大溢浪下田、岡方、災ニ罹ル千余戸僅ニ十余戸ヲ存ス又松崎湾怒濤家屋田畠ヲ潰シ一時ニ海原トナシ宮内村ノ中央マデ大船ノ忱柱ヲ押上グ此時伊濱村ノ西方海上七八里程大砲ノ如キ響アリテ水煙天ニ漲リ水面四トナリ大水輪ヲナシテ四方ニ開ケリ蓋該所ニ火脈ノ破裂セルヲ以テ溢浪ヲ起シタルナルベシト沿海諸村落ノ罹災之ニ準ジテ知ルベシ

(増)同二年乙卯十月二日夜地震年契云東都地大震覆壓死傷者甚多シト豆州ハ元年ノ災ニ比

スレバ甚シトス輕 ㊐同三年丙辰八月二十五日大雨暴風年契云關東大風撥木大木拔ト月表云關東大風江都尤甚シト矢田部氏記云三島神社破損甚シク社木數百本倒ルト確氷氏記云下田尤甚シ剽浪人家ヲ倒シ堤防ヲ崩ス船舶摧ケテ殆ント盡クト其余ハ推シテ知ルベシ ㊐同五年戊午六月二十三日二十四日大雨破損多シ矢田部氏記 ㊐同年秋惡疫流行死者多シ矢田部氏記年契云此年疫病流行ト近事紀略云是秋彗星見天下大疫病候異常暴痢絶發氣即絶死者以萬計江戸最甚至十萬人世曰其證云虎狼痢蓋疫病也ト世ニコロリト云キ今謂フコレラ病ナリ ㊐明治元年戊辰十月賀茂郡網代村海口ニ碇泊セル蘭氣翔鶴艦火災ニ罹リ沉没シ民家百七十餘戸ヲ延燒ス縣治紀事本末、マタ云同二年ヨリ其沉没品揚陸ノ事ニ從フト雖モ分ノ結果ヲ得ズ迂延數年ヲ經過スト ㊐爾後祥異ノ記スベキモノ多カラズ一二度ノ洪水ト三四回ノ惡疫流行アリシノミ

㊐雜事第十二卷所載事蹟ヲ改メテ本條ヲ置ク大日本國志ニ倣ヘリ、

○應神天皇五年甲午冬十月、科伊豆國令造船、長十丈船既成之、試浮于海便輕泛疾行如馳、故名其船曰枯野、由船名枯野是義違焉若謂輕野後人訛與 ○三十一年庚申秋八月、詔群卿曰官船名枯野者伊豆國所貢之船也、是朽之不堪用、然久為官用功不可忘、何其船名勿絶、而得傳後葉焉、群卿便被詔以令有司取其船材為薪而燒鹽、於是得五百籠、鹽則施之周賜諸國、因令造船、云云 初枯野船為鹽薪燒之、日有餘燼、則奇其不燒而獻之、天皇異以令造琴、其音鏗鏘而遠聆、是時天皇歌之曰、訶羅怒烏、之褒珥椰抈、之餓阿摩離虚等珥莵

句離訶枳璧句椰、由羅能斗那訶能、異句離珥敷例多菟、那豆能紀能佐椰佐椰、日本書紀○厚顔抄菟下句那字屬下疑有闕文誤字袖中抄顯昭云伊豆デ舟ハ萬葉集ニ伊豆手舟ト書リ伊豆國ヨリ而此句上下作リ出シタレバシカ詠リト又皇年代記ニ崇神天皇十四年伊豆國ヨリ大船ヲ貢献セシ事アリト○覆中天皇四年癸卯十一月、令稲田、忌寸狩伊豆國菅寢山零數以萬數之、中有三角之羚羊、貢官、類聚國史增異本類聚國史文ナリ、○推古天皇二十八年庚辰秋八月、掖玖人二口流來於伊豆國、日本書紀○和銅五年壬子秋七月、令伊豆國始織綾錦、續日本紀扶桑略紀増○養老四年庚申三月、按察使向京及巡行屬國之日乘傳給食、因給伊豆國鈴一五月給三剋鈴一○神亀元年甲子三月、定諸流配遠近之程、伊豆云々六國、為遠續日本紀扶桑略記増○天平寶字五年辛巳十一月、以從四位下藤原惠美朝臣朝狩為東海道節度使、其所管伊豆云々等十國撿定船一百五十二隻兵士一萬五千七百人子弟七十八人水手七千五百二十人續日本紀増皆免三年、田租悉赴弓馬兼調習五行之陣其所遣兵士者便役造兵器、同上○弘仁十一年庚子二月、配遠江駿河兩國、新羅人七百人反叛殺人民燒屋舍工國發兵擊之不能勝盜伊豆國穀乘船入海日本後紀纂○天長七年庚戌十一月太政官符、應補伊豆云々等國博士醫師同上増三代格○仁壽四年甲戌十月公卿奏謝、伊豆前守従五位下百濟宿禰康保、毆殺

部下百姓數人康保罪當死詔減死一等處之遠流類聚國史○齊衡二年乙亥九月以伊豆國大興寺預於定額為海印寺別院大興寺者孝子大部富賀滿為國家所建也文德實錄○元慶三年戊戌二月伊豆國司勘注國內損田言上勅損田數非無疑殆然而國宰其人仍停遣使宜此般據國司勘定但桑田不在免限三代實錄增仁和三年丁未六月伊豆云々十九國貢絹麁惡特甚不如昔日勅譴國宰探取正倉舊絹每國賜一疋依舊樣作同上增延喜三年癸亥六月二十日置伊豆國云々十一箇國讀師三代格○凡流移人者省定配所申官其路程者從京為計伊豆去京七百七十里云々等國為遠流延喜式

○天慶三年庚子正月遠江伊豆等國連書解狀云官符使卜部松見於駿河國為群賊被奪取了扶桑略記增又兵來圍國分寺奪取雜物射殺人民日本紀略○天德五年辛酉十一月但此經有兩譯師所持者先譯多除梵本其後譯者為之具足也其本在伊豆國禪院天下無二本扶桑略記○義安元年辛卯七月八日船一艘抵伊豆沖島按沖島乃八丈島也或以為隱岐國謬矣登岸八人長可皆八九尺反首猿目躶體而纏編蒲刺繡遍身執大杖而皆無言島人以為是鬼乃試與之粱酒則歡若馬飲既而見島人持弓失而乞之不與即怒呼喚杖殺五人或被傷島人大懼出神弓且射之於是輙沒海上船乘風去十月狀

其事而與其遺一帶上之國司帶乃藏諸蓮華王院寶庫著聞集（増）舊假字書ナリ（増）嘉應二年庚寅四月狩野茂光等ニ命シテ源為朝ヲ大島ニ擊テ之ヲ殺ス（保元物語系圖云為朝安元二年三月六日於伊豆大島被討ト記シテ後考ニ備フ）（増）治承四年庚子八月十七日源頼朝平兼隆ヲ山木館ニ討テ之ヲ殺ス（東鑑云散位平兼隆者伊豆國流人也依父知泉守信兼之訴配于當國山木郷漸經年序之後假平相國禪閤之權威於郡郷是本自依為平家一流氏族也然間且為國敵且令拵私意趣給之故先試可被誅兼隆也云々）（増）同十九日兼隆親戚史大夫知親在當國蒲屋御厨日者張行非法令惱亂土民之間可停止其儀之趣武衛令加下知給邦道為奉行是関東事施行之始也其状云

下　蒲屋御厨住民等所　可早停止史大夫知親奉行　右至于東國者諸國一同庄公皆可為御沙汰之旨親王宣旨状明鏡也者住民等存其旨可安堵者也仍所仰故以下（東鑑）（増）元暦二年乙巳三月十二日為征罰平氏兵船三十二艘日來浮于伊豆國鯉名嶋并妻良津被納兵粮米仍早可解纜之由被仰下俊兼奉行之（同上）（増）正治三年辛酉十月三日江間太郎殿（恭時）昨日下著豆州北條給當所去年依少損毛去春庶民等粮乏盡失耕作計之間捧數十人連署状給出舉米五十石仍返上期為今年秋之處去月大風之後國郡大損亡不堪飢之族已以欲餓死故負累件米之輩兼怖譴責拵逐電思之由令聞及給之間為救

民愁所被揚鞭也同上○元久元年甲子六月左金吾禪閤御家人等隱居于片土企謀叛綷發覺之間相州差遣金窪太郎已下忽被戮之按ニ此ニ言片土而不言處所然從源頼家修善寺者謀叛也土人之說亦然故載于此○弘長三年癸亥八月二十七日大風鎮西乃貢運送船六十一艘於伊豆海同時漂濤以上東鑑

(增)康安元年辛未十二月畠山國清源基氏ニ叛キ其弟義深等ト伊豆國ニ來リ三津金山修善寺城ヲ構ヘテ楯籠ル大平記ナホ古蹟ノ條參觀下皆準之

(増)長祿元年丁丑十二月源政知將軍義政ノ弟伊豆國ニ下向堀越ノ館ニ住スアリ鑓倉大雙紙云左馬頭政知伊豆國迄下向鑓倉ニハ御所ヲモナノ要害アシカ敵地モ近ケレバ迎堀越ト云所ニ假屋形ヲ立伊豆國ヲ知行セラル(増)延德三年辛亥四月伊勢長氏駿河ヨリ伊豆ニ入リ政知ノ子茶々丸ヲ殺シ闔州ヲ併ス北條五代記云堀越ノ御所ト號シ伊豆國北條ニ坐マス外山豐前守秋山藏人二人ノ家老アリ俵人ノ說ニヨリ此兩臣ヲ切腹セシメ其義ニツキ伊豆國サワギ人心シヅカナラズ早雲駿河國高國寺ニ有テ此由ヲキヽ是天ノ與フル所ナリト人數ヲ催シ夜中黃瀨川ヲ越シ北條ニ乱入ル御所ハ思ノ外ニ驚キ逃ニ落行大森山ヘ逃入ヌ早雲北條ニ旗ヲ立近邊ノ民屋ニ放火シ猛威ヲ振ヒケレバ三津ノ松下三郎右衛門尉、江梨ノ鈴木兵庫助大見ノ三人衆ト號シ梅原李右衛門、佐藤四郎兵衛、上村玄蕃急キ馳來テ早雲幕下ニツキ時日ヲ移サズ御所ヲ亡サント大森ヘ攻上リ御所山ヲ下リ會下寺ニ入テ切腹ス此威勢ニ恐レ土肥ノ富長三郎左衛門尉、田子ノ山本太郎左衛門尉、雲見ノ高橋將監、妻良ノ村田市之助、ナド云侍悉ク來テ降人トナル伊豆一國八三十日ノ中ニ相違ナク治メラレタリトス(増)天正十八年庚寅豐臣氏小田原ノ役起ル本州亦其災ニ罹ル條北條九代後記、小田原記載ル所大同小異トス

五代記云伊豆駿河數城ア
リト雖何レモ大軍ヲ引請ベ
キ城ニ非ル故皆トリテ豆刈並山一城ヲ殘セリ同國
山中ハ先年関所ノ道ニテ地形廣カラスト雖岱埼ヲ取
入堀ヲホリ海道フセギノ為、新義ニ興シタル小城ナリ
松田兵衛大夫、城代トスカ勢トシテ北條左衛門大夫、間
宮豊前守、池田民部、山中大炊助、椎津隼人正ヲ指遣サル
云々（三月廿七日落城ス）並山城ニハ北條美濃守氏規籠
ル此攻衆羽柴右衛門大夫云々ヲ先トシテ都合其勢五
萬余騎三月廿九日午刻ニ押寄セ七月マテ五月間晝夜
透間モナク攻戰フ下田城ニハ清水上野守タテ籠ル寄
々手ニ伊勢、尾張、三河、遠江、駿河、ノ兵船渡海シ伊豆津々浦
ヘ船ヲツケ九鬼大隅守大将トシテ攻メラル云々此
時豊臣氏制札ヲ各郷村ニ頒チテ土民ヲ鎮静セリ其文
云（條々）伊豆國何々郷一地下人百姓等急度可令還住
事一軍勢甲乙人不可陣取事一銭切并麥
土民百姓家不可毛成敗者也取事天正十八年卯月朱印
自然非分儀申懸者於在之者可為一揆
右條々若違犯輩於有之者連可被加御
達書諸村ニ存スル其文同文云
同何葦ナリ又同五月伊奈熊藏ノ
々之郷當成ケ之事如前被

仰候間田地荒サヌ様開發可被仕候田地荒サヌ様於開
發者先々定成ケ之内少御宥免可有之候間チリン致
候百姓何レモ召返シ指南可被仕候種共用於無之者入
次第借可申候何事モ傳役等之義自家康被仰付候義ハ
我等手形次第奉公可被申候自上様之於御用者不及手
形不限夜中可被走出者也依如件　寅五月十五日伊奈
熊藏印ト伊奈熊藏ハ徳川氏ノ代官ナリ上様トアルハ
豊太閤ナリ文ニ因リテ按ズルニ本刈此
月既ニ徳川氏ノ手ニ
属セル事知ルベシ

増 同年天正十八七月ヨリ摠検地アリ
同年検地帳寫諸村存スルモ少ラ
ズ又十九年ノ帳モ存スルアリ

増 文禄三年甲午亦摠
検地アリ、同年度検地帳存ズルモノ頗多シ狩野諸村中
同四年荒間帳アリテ検地帳ナキモノアリ又
タマ〻五年ノ帳存ズルアリテ
文禄、両度ハ伊奈熊藏ノ縄打ト云フ

増 慶長三年戊戌マ
天正、
タ検地アリ彦坂小刑部ノ縄打ナリ同年検地帳今ナホ
多ク存ズ偶同二年及ビ七年八年十一年十
二年十五年等ノ帳アルヲ見ル其后モ往々寛永二年十
二年十三年寛文元年四年六年七年延寶五年六年（六年）

ノ帳アルモノ十數村）元禄九年十年元文四年等ノ（増）元帳アルヲ見ル蓋臨時ニ檢地セルモノナルベシ

禄十四年辛未君澤郡ノ區域ヲ定ム君澤郡ノ稱ハ既ニ天正十八年檢地帳等ニモ記スル所ノ如ト雖慕布星散一定ナラザリシガコノ年代官小長谷勘左衛門令ヲ發シ區域ヲ立一郡ニ定ムト云フ（増）同十五年壬午令ヲ下シテ伊豆國圖ヲ調製スヨ是前正保年度調製ニ係ル國圖ト云モノアリト雖其年月詳ナラズ元禄圖ハ今猶官庫ニ傳ル所ニシテ元禄十五年壬午七月井上大和守安藤筑後守松前伊豆守久貝因幡守ノ奥書アリト民間往々古キ國圖ヲ傳ルモノアルハ其寫ナラン歟カラズ（増）寛政十二年庚申秋山章豆州志稿編纂ノ功成ル、（増）天保五年甲午令ヲ下シテ各宿村明細取調書ヲ出サシム所謂天保郷帳是レナリ諸村往々其寫ヲ存ズルモノアリ（増）嘉永二年己酉閏四月八日英船浦賀ニ來リ同十二日伊豆下田ニ上陸ス江川太郎左衛門之ヲ諭ス十七日去ル亦大島ニ上陸ス近代月表、按ニ外船ノ屢下田ニ來ルモノ此時其始メナルベシ（増）同五年壬子五月廿四日魯船下田ニ來ル廿九日肥前ノ漂民七人ヲ置テ去ル近代月表、按ニ其船將刀ハンロシリチユヂンニ送ルテンベル「ト漂民ハ暫ク韮山ニ置キテ本藩ト云フ（増）同六年癸丑江川英龍始メテ反射爐ヲ賀茂郡本郷ニ建設シ既ニシテ田方郡中村字瀧之入ニ轉シ大炮ヲ鑄造ス江川英龍傳、紀事本末、傳云江川英龍氏世界ノ形勢ニ著日スル所アリ屢慕府ニ建言シテ反射爐ヲ創建シ銃製炮礮ヲ鑄造セリ后又安政年中男英敏氏其遺志ヲ継ギ小銃炮ヲ鑄造スル數百門ナリト云フ（増）安政元年甲寅五月廿二日林大學頭等下田ニ於テ米人ト條約附錄ヲ定ム同年閏七月廿五日米船二艘下田ニ入ル「カナン」來ル同廿九日又

一艘来ルト　是ヨリ前三月廿七日元萩藩吉田寅次郎澁木松三郎（金子重輔変名）ヲ下田ニ捕フ四月獄ニ下ス外國ニ行ントスルヲ以テナリト共ニ月表　(増)同年十一月四日大震海溢伊豆甚シ下田ニ碇泊セル魯船之ガ為ニ壞ル廿六日魯ノ壞船下田ヨリ戸田ニ赴ク海上ニテ沉没ス魯人戸田ニ留リ「クネール」船ヲ作ル（近代月表、江川英龍傳）同年十二月十二日佛船三河、漂民ヲ送リ下田ニ来ル魯人戸田浦ヨリ之ヲ襲ハントス佛船去ル　同二年五月魯人「ヲーチヤチン」新造「スクネール」船ニ乗リ「カムサツカ」ニ航ル　同三年十月魯人下田ニ来リ「スクネール」船ヲ返シ去年滞留中ノ恩ヲ謝ス（月表）　(増)同十二月九日米船下田ニ来リ條約ヲ定ムル事ヲ請フ　同十九日之ヲ許スト（月表）　(増)同十八日筒井紀伊守川路左衛門尉ニ下田取締ヲ委任スサ一日魯人ト條約ヲ結ビ下田長崎箱館三港ヲ開ク（近代月表、確氷氏記云此ニ於テ假條約成リ下田町同心町ニ欠乏所ヲ設ケ貿易ノ緒ヲ開ケリト）　(増)同二年乙卯正月廿七日米船下田ニ來ル魯人ヲ乘セ魯國ニ送ル事ヲ約ス　(増)又二月廿八日米船ノ命ニテ魯人魯國ニ送ラン事ヲ云フ　三月四日佛船一艘下田ニ来ル米國官吏ニ来リ十一日又来リ魯人ノ居ヤ否ヲ問フト（月表）　(増)同年三月廿七日米船二艘下田ニ来リ日本海測量ヲ請フ　(増)五月廿一日米船下田ニ来ル小銃二千餘ヲ載来ルト云フ（月表）　(増)同三年丙辰七月十九日米船下田ニ来ル「ハルリス」國書ヲ携フ國使トシテ永住并老中ニ面會等ノ事ヲ云フ　(増)八月六日米船下田ヲ去ル「ハルリス」并通辯「ヒウスケン」等柿崎玉泉寺ニ留住ス（月表）　(増)同四年丁巳五月廿六日下田ニ於テ井上信濃守、中村出羽守、米人ト條約ヲ結ビ

長崎ヲ開ク七月廿一日米船下田ニ来ル廿八日去(月表)

(増)同年十月七日米人八ルリス下田ヲ發シ十四日江戸ニ著藩書調所ニ宿ス

(増)十八日八ルリス佐倉候邸ニ至リ國書ノ寫ヲ出スセ一日八ルリス登城國書ヲ呈スセ六日八ルリス佐倉邸ニテ八ルリス至リ重大事件ヲ上言ス十二月二日佐倉邸ニテ八ルリス應接交易并ニ公使ヲ置ク事ヲ許ス同日井上信濃守、岩瀬肥後守、等ヲシテ八ルリスト假條約ヲ結バシメ江戸大坂等七港ヲ開ク十五日八ルリス上言ノ書ヲ諸候ニ示シ兼常憂革ヲ達ス同五年正月廿一日八ルリス下田ニ般ル三月五日八ルリス亦江戸ニ来リ假條約調印ヲ促ス五月二日調印ヲセ七日マデ延ル旨ヲ八ルリス命ス七日八ルリス下田ニカヘル(月表)

(増)同五年戊午六月十三日米船二艘下田ニ來ル十六日魯船一艘下田ニ來ル八ルリス小栗沖ニ來リ英船三十艘來ル旨ヲ上言シ假條約調印ヲ促ス十九日調印ヲ許ス(増)十二月十八日八ルリス横濱ニ来リ廿一日下田ニ般ル又同六年六月四日ハルリス公使トナリ善福寺ニ来リ住ス(月表)確氷氏記云外人下田ノ互市場ヲ喜バズ此年ニ至リ武州横濱貿易場ヲ開クニ至ル爾后外船ノ下田ニ来ルモノ稀ニナレリト

(増)明治三年庚午四月本州南洋中噴火ヲ發シ一小嶼ヲ生ス紀事本末云八丈島附青島ヨリ凡二十五里辰巳ノ方四月中地震後一ノ小島嶼湧出スト

(増)同五年壬申四月中本州ノ地ヲ分割シテ此時足柄縣静岡縣ニ合スルノ公達アリ此時ニ當リ全州人民大ニ之ヲ憂ヒ奮然總代數名ヲ出京セシメ大藏省ヘ歎願條陳スル所アリ頃テ大藏大丞渡邊清實地巡視民情探知ノ命ヲ受ケ出張アリテ遂ニ分割取消ノ令アルニ至ル紀事本末云其上書ノ如キ略全州ノ風習人情ヲ知ルニ足ルト予亦之ヲ閲讀スル毎ニ以テ本州人ノ團結力ア

ルヲ感想セズンバアラズ嗚呼本州人タルモノ該時ノ事ヲ記臆シ後来此團結心ヲ失フ事ナクバ無限ノ幸福ナラン

（増）同七年甲戌三月二十日夜賀茂郡入間村海岸ニ於テ佛國郵船二ール號沉没ス法朗西馬耳塞港郵便會社持船長サマト外八十九人乗船長四十九間半幅四間半擂三本其後沉没品揚陸ノ事ニ從ヒ数年ヲ經過スト（紀事本末）騒擾時憂アルハ天下ノ厄ナリ驚擾時憂ナキハ史場ノ厄ナリ蓋史場ノ幸ヲ以テ人民ノ不幸ヲ知リ人民ノ不幸ヲ以テ史場ノ幸ヲ知ルベシ今ヤ豆州ノ紀事ニ於テ明治以来僅々蒸氣翔鶴艦ノ火災郵船二ール号沉没等二三事實ノ外ニ出テス其載録ナキニ困ミ頗困難ヲ聲サヽルヲ得スト（紀事本末）以テ明治以来本州ノ無事ヲ窺フ可シ

増訂豆州志稿卷之一　終

明治二十四年三月廿日印刷
同　年四月六日出版

正價金三十五錢

著作者　故人号富南　秋山章　伊豆國君澤郡中郷村安久

著作者　静岡縣平民　萩原正平　仝國仝郡川西村小坂十七番地

印刷兼發行者　仝　小西又三郎　仝國仝郡三島町市ヶ原六百七十一番地

販賣所　小西豐造　東京市京橋区銀座四丁目七番地